新百合ヶ丘総合病院
内科専門研修プログラム

2027 年度



【プログラム認定番号】 1117140033

新百合ヶ丘総合病院　内科専門研修プログラム

【目　次】

1. 理念・使命・特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2. 募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3. 専門知識・技能の習得計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
4. 専門研修の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
5. 専門研修の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
6. 研修の終了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
7. プログラム運用マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
8. 内科専門研修委員会の運営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
9. 内科専攻医の就業環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
10. 内科専門研修プログラムの改善方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
11. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修・・・・・・ 27
別表 1　内科専攻研修において求められる疾患群、症例数、病歴提出数について・ 29
別表 2　診療実績・年間入院件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
別表 3　研修施設群　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
別表 4　新百合ヶ丘総合病院　内科医数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
別図 1　新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム　概念図・・・・・・・・・ 31
別図 2　内科専門研修ローテーションの一例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
別図 3　内科専門研修と内科スペシャルティ分野専門研修の概念図（連動研修）・ 32
別図 4　新百合ヶ丘総合病院　週間スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
資料 1　新百合ヶ丘総合病院　内科専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・・・ 33
資料 2　新百合ヶ丘総合病院　内科指導医マニュアル・・・・・・・・・・・・・・ 47
新百合ヶ丘総合病院内科研修プログラム　新百合ヶ丘総合病院　施設概要・・・・ 51
新百合ヶ丘総合病院内科研修プログラム　連携病院　施設概要
　北里大学病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
　国際医療福祉大学成田病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
　国際医療福祉大学三田病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
　国際医療福祉大学熱海病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
　聖マリアンナ医科大学病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
　総合東京病院　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

総合南東北病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
茅ヶ崎市立病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
帝京大学医学部附属溝口病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
東海大学医学部付属病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
東京医科大学病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
東京医療センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
東京科学大学病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
東京都立広尾病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
東京山手メディカルセンター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
東北医科薬科大学病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
平塚市民病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
藤沢湘南台病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
横須賀市立総合医療センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
横浜栄共済病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
横浜市立大学附属病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
横浜労災病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・・・・・・ 97

新百合ヶ丘総合病院

内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

1) 領域専門制度の理念【項目 1】

本プログラムは、神奈川県川崎北部医療圏の中心的な急性期病院である新百合ヶ丘総合病院を基幹施設として、それぞれ特徴のある連携施設での内科専門研修を経て、国民から信頼される内科領域の専門医を養成することを目的としており、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医を育成することをめざすものです。

初期研修を終了した内科専攻医は、本プログラムに則り、基幹病院と連携病院からなる専門研修施設群で 3 年間、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全域にわたり研修を行い、標準的かつ全人的な内科領域全般の診療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャルティ領域の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力であり、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です。

内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶ。その際、単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります。

そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能になります。

2) 領域専門制度の使命【項目2】

内科領域の専門医の使命は、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医は疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて市民の健康に積極的に貢献することで、国民の信頼を獲得することが求められています。内科専門医が

多様な医療現場で活動し、最新の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時に、チーム医療を円滑に運営する使命があります。

基幹病院である新百合ヶ丘総合病院がある神奈川県川崎北部医療圏は、2020年国勢調査において人口 870,495人、人口増加率 3.21%であり（全国平均は - 0.75%）、日本の中でも有数の人口増加圏です。しかしながら、人口 10万人あたりの病院数は全国平均 6.49と比較し川崎北部医療圏は 2.30と低く、各病院の医療における負担増加が懸念されますが、医療の質を落とすことなく、的確な診療を行うことが必要です。こうした都市医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるよう研修を行うことで、日本を支える内科専門医を育成したいと考えています。

3) 特性

- 本プログラムは、神奈川県川崎北部医療圏にある新百合ヶ丘総合病院を基幹病院とし、同医療圏の聖マリアンナ医科大学病院、帝京大学医学部附属溝口病院と、神奈川県内の北里大学病院、茅ヶ崎市立病院、東海大学医学部付属病院、平塚市民病院、藤沢湘南台病院、横須賀市立総合医療センター、横浜栄共済病院、横浜市立大学附属病院、横浜労災病院、東京都都区内にある国際医療福祉大学三田病院、総合東京病院、東京医科大学病院、東京医療センター、東京科学大学病院、東京都立広尾病院、東京山手メディカルセンター、千葉県成田市にある国際医療福祉大学成田病院、静岡県熱海市にある国際医療福祉大学熱海病院、福島県郡山市にある総合南東北病院、宮城県仙台市にある東北医科薬科大学病院を連携病院としています。

- 基幹施設で 2年間、連携施設で1年間の研修を行います。

- 専攻医の希望により、内科専門研修期間中にサブスペシャルティ領域を研修することを認めますが（連動研修・並行研修）、このサブスペシャルティ専門研修としての指導と評価は、サブスペシャルティ指導医が行います。

- 基幹施設である新百合ヶ丘総合病院は、2012年8月1日に開院し、地域医療への貢献、高度先端医療の実践、最良の安心を得られる医療を目標に掲げています。救急患者を積極的に受け入れており、さまざまな内科救急疾患に対応できる能力を養うことができます。高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携についても経験できます。また、最新最高峰の汎用リニアック型治療機のTrueBeam®、ロボット手術機器 da Vinci®、診断用 128列マルチスライス

CT、PET-CT、3テスラ MRIなど最先端の医療機器を備え、高度な先進医療や予防医学を実践し、救急医療やがん診療にも貢献しています。新百合ヶ丘総合病院では、多くの臨床研究を行っております。最先端の臨床研究に触れる機会は、リサーチマインドを養成するのに大きな意義があると考えられます。2017年度から基幹型初期臨床研修病院となり、また、2020年4月に 377床から563床に増床しました。

- 新百合ヶ丘総合病院では、各領域の経験豊富な指導医のもと、内科各領域において充実した指導を受けることができます。これまでの診療実態からは、各内科2-3ヶ月間のローテーションを行うと2年間研修することで、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群（資料1「内科研修カリキュラム項目表」参照）すべてを経験することが可能と考えられます。少なくとも 120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。

- 専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（別表1「新百合ヶ丘総合病院　疾患群　症例　病歴要約　到達目標」参照）。

- 連携病院での研修：6-12カ月間、特色のある連携病院での研修を行います。

- 基幹施設である新百合ヶ丘総合病院での2年間の研修と、連携病院での 1年間の研修で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70疾患群（資料 1「内科研修カリキュラム項目表」参照）のうち、少なくとも 56疾患群、120症例以上を経験し（可能であれば 70疾患群、200症例）、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます（別表1「新百合ヶ丘総合病院　疾患群　症例　病歴要約　到達目標」参照）。

4) 専門研修後の成果【項目 3】

プログラムを修了することで、内科領域の専門医の使命に基づき、患者中心の医療を展開できる能力を修得します。チーム医療に基づき医療を円滑に運営し、疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じ、市民の医療に積極的に貢献する内科専門医を目指します。

本制度の成果とは、必要に応じて多様な環境で活躍できる内科専門医を多く輩出することにあります。

内科専門医が活躍する場とその役割として、以下のものが想定されます。
1）病院医療:内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践する。
2）地域医療:かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。
3）救急医療:内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践する。

2. 募集要項【整備基準 26-29, 36, 52】

1) 専門研修中の勤務先

(1)基幹病院；医療法人社団 三成会　新百合ヶ丘総合病院

〒 215-0026　神奈川県川崎市麻生区古沢都古 255

TEL 044-322-9991　FAX 044-322-0529

・施設認定・指定（内科系のみ）；

初期臨床研修制度協力型研修指定病院、日本内科学会教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本脈管学会認定研修関連施設、日本呼吸器学会関連施設、日本神経学会教育施設、日本認知症学会教育施設、日本脳卒中学会研修教育病院、日本腎臓学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設

・診療実績

別表に示します（別表 2「新百合ヶ丘総合病院　診療実績」参照）。

・地域の病診・病病連携（内科系のみ）；

新百合ヶ丘病診連携の会（消化器カンファレンス；年 2回）、川崎北部　心臓血管病フォーラム（循環器；年 1回）、新百合ヶ丘循環器フォーラム（循環器；年

1回）、新百合ヶ丘イブニングカンファレンス（循環器、ほか；年 1回）、新百合ヶ丘がんセミナー（消化器、ほか；年 1回）、神奈川神経免疫フォーラム（神経；年 1回）、神奈川神経談話会（神経；年 4回）など

(2) 連携病院：研修施設群（別表3「研修施設群　概要」参照）

・北里大学病院
　〒252-0375　神奈川県相模原市南区北里1-15-1　TEL 042-778-8111
・国際医療福祉大学成田病院
　〒286-8520　千葉県成田市畑ヶ田852　TEL 0476-35-5600
・国際医療福祉大学三田病院
　〒108-8329　東京都港区三田1-4-3　TEL 03-3451-8121
・国際医療福祉大学熱海病院
　〒413-0012　静岡県熱海市東海岸町13-1　TEL 0557-81-9171
・聖マリアンナ医科大学病院
　〒216-8511　神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1　TEL 044-977-8111
・総合東京病院
　〒165-0022　東京都中野区江古田3-15-2　TEL 03-3387-5421
・総合南東北病院
　〒963-8052　福島県郡山市八山田7-115　TEL 024-934-5415
・茅ヶ崎市立病院
　〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1　TEL 0467-52-1111
・帝京大学医学部附属溝口病院
　〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子5-1-1　TEL 044-844-3333
・東海大学医学部付属病院
　〒259-1193　神奈川県伊勢原市下糟屋143　TEL 0463-93-1121
・東京医科大学病院
　〒160-0023　東京都新宿区西新宿6-7-1　TEL 03-3342-6111
・東京医療センター
　〒152-8902　東京都目黒区東が丘2-5-1　TEL 03-3411-0111
・東京科学大学病院
　〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45　TEL 03-3813-6111
・東京都立広尾病院
　〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿2-34-10　TEL 03-3444-1181

・東京山手メディカルセンター

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1　　TEL 03-3364-0251

・東北医科薬科大学病院

〒983-8512 宮城県仙台市宮城野区福室1-12-1　　TEL 022-259-1221

・平塚市民病院

〒254-0065 神奈川県平塚市南原1-19-1　　TEL 0463-32-0015

・藤沢湘南台病院

〒252-0802　神奈川県藤沢市高倉2345　　TEL 0466-44-1451

・横須賀市立総合医療センター

〒239-8567　横須賀市神明町1番8　　TEL 046-823-2630

・横浜栄共済病院

〒247-8581　横浜市栄区桂町132　　TEL 045-891-2171

・横浜市立大学附属病院

〒236-0004　横浜市金沢区福浦3-9　　TEL 045-787-2800

・横浜労災病院

〒222-0036　横浜市港北区小机町3211　　TEL 045-474-8111

2) 専攻医の募集人数、専門研修の期間、採用方法、待遇修了後に想定される勤務形態

- 募集人数；5名/年
- 研修期間；3年間
- 給料；　500,000円/月（新百合ヶ丘総合病院・総合東京病院）
- 採用方法；プログラム委員会が書類選考と面接を行い、採否を決定します。
- 研修期間中は、新百合ヶ丘総合病院　内科専攻医として勤務します。
- 研修修了後は専攻医の希望により、新百合ヶ丘総合病院で内科系救急医、総合内科医（ジェネラリスト）、内科系サブスペシャリストとして勤務が可能です。
- 総合東京病院、総合南東北病院での研修は、新百合ヶ丘総合病院からの出向扱いとします。
- 上記以外の病院での研修期間の待遇は、各病院の規定に準ずることとします。
- 募集の詳細は Websiteで公表します。病院見学も随時受け付けます。

3) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名、指導医数

プログラム統括責任者；井廻 道夫

プログラム管理者；広石 和正

新百合ヶ丘総合病院 研修委員会 委員長；篠崎 倫哉

新百合ヶ丘総合病院 内科指導医；（別表4「新百合ヶ丘総合病院 内科医数」参照）

井廻 道夫, 他9名

櫻井 馨, 他4名（循環器内科；サブスペシャルティ研修可能）

眞木 二葉, 他1名（脳神経内科；サブスペシャルティ研修可能）

篠崎 倫哉, 他3名（腎臓内科；サブスペシャルティ研修可能）

永井 厚志, 他5名（呼吸器内科；サブスペシャルティ研修可能）

佐倉 宏（糖尿病内科；サブスペシャルティ研修可能）

田内 哲三, 他3名（血液内科；サブスペシャルティ研修可能）

荻原 秀樹（膠原病・リウマチ内科）

川島 彰人（一般内科）

北里大学病院　研修委員会　委員長；宮塚　健

内科指導医；66 名 （2024年）

国際医療福祉大学成田病院　研修委員会　委員長；村井 弘之

内科指導医；30 名 （2024年）

国際医療福祉大学三田病院　研修委員会　委員長；合屋 雅彦

内科指導医；8 名 （2024年）

国際医療福祉大学熱海病院　研修委員会　委員長；山田 佳彦

内科指導医；10 名 （2024年）

聖マリアンナ医科大学病院　研修委員会　委員長；出雲 昌樹

内科指導医；113 名 （2024年）

総合東京病院 研修委員会 委員長；菅原 崇

内科指導医；6 名（2024年）

総合南東北病院 研修委員会 委員長； 金子 知香子

内科指導医；8 名（2024年）

茅ヶ崎市立病院 研修委員会 委員長； 望月 孝俊

内科指導医；15 名（2024年）

帝京大学医学部附属溝口病院 研修委員会 委員長； 菊池 健太郎
内科指導医；15 名（2024年）

東海大学医学部付属病院 研修委員会 委員長； 水間 敦士
内科指導医；64 名（2024年）

東京医科大学病院　研修委員会　委員長； 四本 美保子
内科指導医；84 名（2024年）

東京医療センター　研修委員会　委員長； 上野 博則
内科指導医；39 名（2024年）

東京科学大学病院　研修委員会　委員長； 服部 高明
内科指導医；122 名（2024年）

東京都立広尾病院　研修委員会　委員長； 田島 真人
内科指導医；17 名（2024年）

東京山手メディカルセンター 研修委員会 委員長； 笠井 昭吾
内科指導医；28 名（2024年）

東北医科薬科大学病院　研修委員会　委員長；木村 朋由
内科指導医；49 名 （2024年）

平塚市民病院 研修委員会 委員長； 高木 俊介
内科指導医；15 名（2024年）

藤沢湘南台病院　研修委員会　委員長； 松田 玲圭
内科指導医；4 名（2024年）

横須賀市立総合医療センター　研修委員会 委員長； 岩澤 孝昌
内科指導医；13 名（2024年）

横浜栄共済病院　研修委員会　委員長；山田 昌代
内科指導医；14 名 （2024年）

横浜市立大学附属病院　研修委員会　委員長；藤田 浩司
内科指導医；47 名 （2024年）

横浜労災病院　研修委員会　委員長；山崎 悦子

内科指導医；25 名　（2024年）

4) 各施設での研修内容と期間（別図1 内科研修プログラム概念図 参照）

当プログラムでは、基幹施設である新百合ヶ丘総合病院で計 2年間、連携施設で計1年間研修を行います。各内科診療科での研修施設・研修期間は、専攻医の意見をもとにプログラム管理委員会で調整します。

専攻医2年目に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、2年目後半以降の研修施設・診療科を調整し決定します（別図2 内科専門研修ローテーション例 参照）。

当プログラムでは、(1) 内科標準タイプ（特定診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行う）、(2) サブスペシャルティ重点研修タイプ（内科専門研修中にサブスペシャルティ研修に比重を置く期間を設ける）を設定していますが、専攻医がどちらか一方を選択できます（別図 3）。サブスペシャルティ重点研修タイプでは、サブスペシャルティ研修期間は1-2年間としますが、サブスペシャルティ指導医が指導・評価を行う必要があります。消化器内科、循環器内科、神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、糖尿病内科、血液内科でサブスペシャルティ研修が可能です。

新百合ヶ丘総合病院では、各診療科内で定期的な抄読会や症例検討会を行うほか、連携診療科とも定期的に症例検討会を行っています。新百合ヶ丘総合病院消化器内科での標準スケジュールを別図4に示します。

新百合ヶ丘総合病院と総合東京病院、総合南東北病院とは、カンファレンス、医学会への参加や、医師の人事交流などで親密に連携しています。プログラム全体での講習会や症例検討会も計画しています。

・大学病院等の大病院での研修内容；

連携病院である大学病院では、各専門領域において先進的の医療を経験することが可能です。実際の診療やカンファレンスを通じて、比較的稀な疾患についても研修する機会があります。研修できる診療科には制限があり、研修委員会で調整します。
各大学病院での研修期間；6ヵ月～1年間

・神奈川近隣の中核病院での研修内容；

地域の中核病院において様々な疾患を有する患者を多く経験し、質の高い医療・介護・福祉医療を修得することができます。一人ひとりに合った総合的な疾病予防や診断・治療を研修し、円滑に医療が実践できる考え方や技術を修得することを目的とし、特色のある連携病院での研修を行います。
各病院での研修期間；6ヵ月～1年間

・総合南東北病院での研修内容；
福島県郡山市の中核病院での研修で、地域医療の重要性を理解するとともに、可塑性のある内科専門医として実践的な医療が行えるよう訓練されます。全人的な内科医療を行うにあたり必要な知識や基本的臨床能力が、多数の症例を経験することで早期に身につくように研修が行われます。
総合南東北病院での研修期間；6ヵ月～1年間

3. 専門知識・技能の習得計画

1) 専門知識の修得計画（資料1「内科研修カリキュラム項目表」参照）【項目 4】
専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。
研修カリキュラムでは、これらの分野に「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療法」、「疾患」などにつき目標（到達レベル）を記載しています［研修カリキュラムの項目表を参照のこと］。
内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験していきます。

この過程によって専門医に必要な知識を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。主担当医であることと適切な診療が行われたか否かの評価については日本内科学会専攻医 登録評価システム(以後、J-OSLER と表記)を通じて指導医が確認と承認とを行います。

なお、専攻医研修において、内科領域はその幅の広さと稀少疾患の存在から全疾患群を受け持つ機会が困難な場合が想定されます。自らが経験することのできなかった症例についてもカンファレンスや自己学習によって知識を補足することが求められま

す。これによって、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行うことが可能です。

ただし、初期臨床研修中の内科研修での経験も内科専門研修で得られなかった貴重な経験が含まれる場合があり、これらを省察し学習することは専門研修においても有益と考えられます。よって、その専攻医が初期臨床研修中に経験した症例のうち、主担当医として適切な医療を行い、専攻医のレベルと同等以上の適切な考察を行っていると指導医が確認できる場合に限り、最低限の範囲（最大 5割；60症例まで）で登録を認めます。これも同様にJ-OSLERを通じて指導医が確認と承認を行います。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）の修得計画【項目 5】

内科領域の基本的「技能」とは、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

内科専門医に求められる技術・技能は「技術・技能評価手帳」に記載されています（資料 1「研修カリキュラム項目表」および資料 2「技術・技能評価手帳」参照）。内科専門研修では、これらの修得は症例経験の中で達成されるべきものです。

内科領域の中には臓器別の特殊な検査や手技も含まれており、サブスペシャルティ専門医でなくとも一定程度の経験が求められています。

内科の修得すべき診察、検査は横断的及び、分野特異的なものに分けて設定しています（資料 3「技術・技能評価手帳」参照）。それぞれの達成度は指導医が確認します。

内科領域のすべての専門医に求められる手技も、資料 3「技術・技能評価手帳」に示されています。内科領域ではこれらの到達目標を症例経験数で一律に規定することはできません。到達目標として提示した疾患や病態の主体的経験を通じて修得すべき事項であり、安全に実施または判定できることを求めています。これらは専攻医が経験をするたびに J-OSLER に登録を行い、指導医が承認を行うことによってその到達度を評価します。

また、バイタルサインに異常をきたすような救急患者や急変患者あるいは重症患者の診療と心肺機能停止状態の患者に対する蘇生手技とについては、受け持ちの症例のみならず、off-the-job training としてシミュレーターを用いた JMECC（内科救急講習会）受講によって修得します。

3) 学問的姿勢【項目 6】

(1) 患者から学ぶという姿勢を基本とする。

(2) 科学的な根拠に基づく診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）。

(3) 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。

(4) 診断や治療の evidence の構築・病態の理解に資する研究を行う。

(5) 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的な学問的姿勢を身につけます。

4) 医師としての倫理性、社会性などについて【項目 7】

内科専門医として必要とされる高い倫理観と社会性を有することが要求されます。具体的には以下の項目が要求されます。

(1) 患者とのコミュニケーション能力

(2) 患者中心の医療の実践

(3) 患者から学ぶ姿勢

(4) 自己省察の姿勢

(5) 医の倫理への配慮

(6) 医療安全への配慮

(7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）

(8) 地域医療保健活動への参画

(9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

(10) 後輩医師への指導

5) 年次到達目標【項目 4，8-10, 16】

内科領域研修は幅広く行うために、内科領域内のどの臓器別専門分野から研修を行うかについては多様性があります。各年次の 到達目標は以下に掲げる数字を目安とします。

○ 専門研修１年：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上の症例を経験し、 J-OSLER にその研修内容を登録することを目標とします。症例指導医は J-OSLER の登録内容を確認し、専攻医として適切な経験と知識の修得ができていることを確認できた場合に承認をします。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。また、専門研修修了に必要な病歴要約を10編以上 J-OSLER に登録し、担当指導医の評価を受けます。

・技能:専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医とともに行うことができます。
・態度:専攻医は自身の自己評価と、指導医、及びメディカルスタッフによる 360 度評価（専攻医評価と多職種評価)を複数回受け、態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを提供します。

○ 専門研修2年：この年次の研修が修了するまでに、カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45疾患群以上の症例を経験し、J-OSLERにその研修内容を登録することを目標とします。

- これらの疾患群のうち外来症例については、内科専攻に相応しい症例経験として、プロブレムリストの上位に位置して対応が必要となる場合（単なる投薬のみなどは認めません）に限り、登録が可能です。

＊ 内科専門研修として相応しい入院症例の経験は、DPC 制度 (DPC/PDPS:Diagnosis Procedure Combination / Per-Diem Payment System) における主病名、退院時サマリーの主病名、入院時診断名、外来症例でマネジメントに苦慮した症例などにおける病名が想定されます。

- 症例指導医は J-OSLER の登録内容を確認し、専攻医の経験と知識が適切であれば承認します。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。
- 専門研修修了に必要な病歴要約（指定された29編以上；初期研修期間中の症例は14編まで）をすべて J-OSLERに登録して担当指導医の評価を受けます。

・技能:専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、及び治療方針の決定を指導医の監督下で行うことが求められます。
・態度:専攻医は自身の自己評価と、指導医及びメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○ 専門研修3年：主担当医として、カリキュラムに定める全 70疾患群を経験し、計200症例（うち外来症例は最大20症例まで）を目標とします。
修了認定には、主担当医として通算で最低 56疾患群以上の症例経験と計 120症例以上（外来症例は1割まで含むことができます。症例の内訳は別表を参照してください）を経験し、J-OSLERに登録しなければなりません。

- 症例指導医は専攻医として適切な経験と知識の修得ができていると確認できた場合に承認します。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。
- 既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。この評価はプログラム外からの評価(外部評価)であり、プログラム内に留まらない多面的かつ客観的な評価を受けることになります。また査読者から専攻医へは、評価とともにコメントがフィードバックされるため、査読者とのやり取りを通じて専攻医の成長が促されるという効果も期待されています。
- 専門研修修了には、すべての病歴要約 29編（初期研修期間中の症例は 14編まで）の受理と、70疾患群中の 56疾患群以上で計 120症例以上の経験のすべてを必要とします。

・技能:専攻医は内科領域全般にわたる診断と 治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を自立して行うことが求められます。
・態度:専攻医は自身の自己評価と、指導医およびメディカルスタッフによる 360度評価を複数回受け、態度の評価を行います。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力が修得されているかを指導医との面談を通じて評価し、さらなる改善を図ります。

4. 専門研修の方法

1) 臨床現場での学習【項目 13】

各診療科を横断的に研修して内科領域の広範におよぶ専門知識を修得します。内科領域70疾患群を順次経験し、その経験した症例について専門医の指導の下、十分に精査し専門医に必要な知識・技術・技能を下記の臨床の場を通して修得します。

(1) 入院・外来において、主担当医として患者を担当し、初診、入院～退院、退院後の通院まで可能な限り全身状態や病態を把握し、社会的背景、療養環境調整を包括した全人的医療を実践します。

(2) 各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、病態や診断過程の理解を深め、多面的な視点や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を向上させます。自ら経験することができなかった疾患群については、カンファレンスなどを通し知識を補足します。

(3) 初診を含む総合内科あるいは各診療科外来の担当医として経験を積みます。

(4) 内科領域の救急診療の経験を、外来あるいは当直（月2-4回程度）を通じて積みます。

(5) 各診療科の検査について、専門医の指導の下、経験を積みます。

2) 臨床現場を離れた学習【項目 14】

(1) 内科領域の救急対応

(2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法、Evidence-based medicineの理解

(3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項

(4) 医療倫理、医療安全、感染対策、臨床研究や利益相反に関する事項

(5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項

抄読会や内科系学術集会、指導医講習会、JMECC等に参加し上記にあげる項目を学習します。また、CPC に参加し、診断、治療の理解を深めます。上記の JMECC では、シミュレーションによる手技修得の他に、チーム医療を実践するトレーニングとしての役割を果たします。

なお、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習は、日本専門医機構が定める専門医共通講習と同等の内容を年に 2回以上受講することが求められます。それぞれの講習会は新百合ヶ丘総合病院で開催され、専攻医に周知されます。

新百合ヶ丘総合病院、および連携各施設のカンファレンスについては新百合ヶ丘総合病院臨床研修センターが把握し、定期的に専攻医に周知し、出席を促します。

3) 自己学習【項目 15】

「研修カリキュラム項目表」は、以下のように分類しています。

(1) 知識に関する到達レベル

A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）

B（概念を理解し，意味を説明できる）

(2) 技術・技能に関する到達レベル

A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる）

B（経験は少数例だが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる）

C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）

(3) 症例に関する到達レベル

A（主担当医として自ら経験した）

B（間接的に経験している〈実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した〉）

C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信、さらに、日本内科学会雑誌の Multiple Choice Questions (MCQ)や、日本内科学会の行っているセルフトレーニング問題などを活用して学習します。

新百合ヶ丘総合病院や連携施設では、図書室を完備し、インターネット環境も整備していますので、個人での文献や教材の参照や自習が可能です。

4) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）【項目 11, 28, 29】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するために地域の中核となる総合病院での研修は必須です。臓器別のサブスペシャルティ領域に支えられた高度な急性期医療を経験すると同時に、地域の病診・病病連携の中核としての役割を経験します。これらは主に専門研修基幹施設における研修を想定します。一方、3 年間の専門研修期間のうち、一定期間を地域に根ざす第一線の病院で研修することも必須です。地域医療として common disease の経験をすると同時に、大学病院などの高度医療施設との病病連携や診療所と中核病院との間をつなぐ病診・病病連携の役割も経験します。近隣の保健福祉施設との連携により、質の高い介護・福祉医療を経験でき、地域医療の重要性を認識し、その知識や技術を修得することも可能です。このように、立場や地域における役割の異なる複数の医療機関で研修を行うことによって、各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験し、内科専門医に求められる役割を実践します。

5) 学術活動【項目 12】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。このため、症例の経験を深めるための学術活動と教育活動とを目標として設定します。

・ 教育活動（必須）

(1) 臨床研修医あるいは医学部学生の指導

(2) 後輩専攻医の指導

(3) メディカルスタッフの尊重と指導

・ 学術活動

(4) 内科系の学術集会や企画に年2回以上の参加（必須）。

※ 推奨される講演会; 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会など。

(5) 経験症例をもとに文献検索を行い、症例報告を行う。

(6) クリニカルクエスチョンを特定して臨床研究を行う。

(7) 内科学に関連する基礎研究を行う。

(上記のうち(5) ～(7)は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を２件以上行うことが求められます)

担当指導医と相談の上、学術活動を実施します。学術集会への参加だけでなく、症例報告を積極的に行います。臨床研究（可能であれば基礎研究も）にも携わり成果を発表します。

6) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上、120 症例の研修内容を登録します。初期研修期間中の症例は最大 5 割；60症例まで登録が可能です。外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

- 上記の研修記録と評価について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握することができます。担当指導医、研修委員会、ならびに研修プログラム管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 専攻医の症例経験入力日時と指導医の評価の日時の差を計測することによって担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタすることができます。担当指導医、研修委員会、ならびにプログラム管理委員会は専攻医の研修状況のみならず、担当指導医の指導状況や、各研修施設群での研修状況の把握を行い、プログラムの改善に役立てることができます。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会は研修施設群の専攻医の研修状況を把握し、プログラムの妥当性を検証することができます。

5. 専門研修の評価【項目 17-22】

1) 形成的評価

(1)フィードバックの方法とシステム

- 形成的評価は研修期間中に行われる評価であり、専攻医の研修記録に対して指導医が評価を実施するとともに専攻医にフィードバックし、評価そのものにより医師としての成長を促すことを目的としています。
- 新百合ヶ丘総合病院内科研修プログラム委員会は、専攻医 1人につき、1人の担当指導医を割り当てます。
- 専門研修では領域内の各分野を基幹施設と連携施設、さらには特別連携施設をローテーションするので、3年間を通じて研修状況の継続的な記録と把握とが必要になります。このため、日本内科学会が構築した J-OSLER を利用します。利用者 (専攻医、指導医、日本内科学会病歴要約二次査読委員等) は日本内科学会が定める所定事項に則って利用することが求められます。専攻医は web を通じて研修内容を J-OSLER に登録し、指導医はその履修状況を確認してフィードバックし、システム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 進行状況に遅れがある場合には、担当指導医と専攻医とが面談の後、施設の研修委員会とプログラム管理委員会とで検討を行います。
- 指導医も指導法の標準化のため内科指導医マニュアル・手引き（改訂版）により学習します。また、順次、厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会を受講します。

- 指導医は専攻医と十分にコミュニケーションをとると共に、2-3ヵ月毎に専攻医の研修実績と到達度を追跡し、研修実績と到達度が充足していない場合は、該当疾患の診療を促します。適宜、病歴要約作成状況を把握し、病歴要約作成を促します。
- 研修態度や全人的医療の実践をはじめとした医療者としての態度を評価し、それを専攻医にフィードバックします。年に 2回（9月、3月）、自己評価、指導医による評価、ならびにメディカルスタッフによる360度評価を行います。その結果は J-OSLERを通じて集計され、担当指導医によって専攻医にフィードバックを行って、改善を促します。
- 専門研修2年修了時までに 29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します。プログラム内の病歴指導医、病歴要約二次評価査読委員による評価とフィードバックが行われ、専門研修3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。
- 専攻医は学会・論文発表や講習会・カンファレンスへの参加を J-OSLERに登録します。指導医は適宜、学術記録や講習会出席状況を把握し、指導を行います。
- 新百合ヶ丘総合病院研修委員会は年に 2回（9月、3月を予定）、プログラム管理委員会は年に1回以上、J-OSLERを用いて、履修状況を確認して適切な助言を行います。指導医は形成的にフィードバックを行い、改善を促します。必要に応じて専攻医の研修中プログラムの修整を行います。
- 内科各診療科のローテーションでは担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の研修委員会で検討します。その結果を年度ごとにプログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(2) （指導層の）フィードバック法の学習【項目 18】

指導法の標準化のため厚生労働省が実施する指導医講習会の受講が推奨されています。

2) 総括的評価

(1) 評価項目・基準と時期 【項目 19】

○ 担当指導医は J-OSLER を使用し、症例経験と病歴要約の指導と評価および承認を行います。

1 年目の専門研修修了時には、カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群以上の経験と病歴要約を 10 編以上の記載と登録が行われるようにします。2 年目の専門研修修了時には、70 疾患群のうち 45 疾患群以上の経験 と病歴要約計 29 編の記

載と登録が行われるようにします。3 年目の専門研修修了時には、70 疾患群のうち 56 疾患群以上の症例を経験し登録する。それぞれの年次で登録された内容は都度、指導医が評価し、承認します。

○ 内科領域の臓器別スペシャルティ領域をローテーション研修する場合には、当該領域で直接指導を行う指導医がそのローテーション研修終了時に、J-OSLER を用いて指導医による内科専攻医評価を行い、研修態度や全人的医療の実践をはじめとした医療者としての態度の評価とフィードバックとを行います。

(2) 評価の責任者 【項目 20】

内科領域の分野のローテーションでは担当 指導医が評価を行い、基幹施設または連携施設の研修委員会で検討します。その結果は、年度ごとにプログラム管理委員会で検討され、統括責任者が最終承認を行います。

(3) 多職種評価（医師としての適正の評価）【項目 22】

多職種による内科専門研修評価を行います。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、統括責任者が各施設の研修委員会に委託して 2 名以上の異なる職種による評価を実施する。その結果は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種がシステムにアクセスすることを避けるため）。評価結果をもとに担当指導医がフィードバックを行って専攻医に改善を促します。改善状況を確認し、形成的な評価として 年に複数回の評価を行います。ただし、1 年間に複数の施設に在籍する場合には、各施設で行うことが望ましいと考えます。

6. 研修の終了

1) 修了判定のプロセス（別表1「新百合ヶ丘総合病院　疾患群　症例　病歴要約　到達目標」参照）【項目 21】

担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下の修了を確認します。

- 主担当医としてカリキュラムに定める全 70疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容をJ-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことが

できます。初期研修期間中の症例は60症例まで登録が可能です）を経験し、登録する必要があります（各疾患領域は50%以上の疾患群での経験が必要です）。

• 29 病歴要約の査読後の受理：初期研修期間中の症例は 14 編まで可能です。

• J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し、医師としての適性の判定を行います。

評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を他職種が評価します。評価結果をもとに担当指導医がフィードバックを行って専攻医に改善を促します。改善状況を確認し形成的な評価とするために 1 年間に 2回（9月と3月を予定）の評価を行います。これらの評価を参考に、修了判定時に医師としての社会人適性を判断します。

2) 修了要件

J-OSLER に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行い、合議のうえ統括責任者が最終判定を行います。

(1)主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例を経験し、登録します。

(2) 所定の受理された 29 編の病歴要約

(3) 所定 2 編の学会発表または論文発表

(4) JMECC 受講

(5) プログラムで定める講習会受講

(6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適正に問題がないと判断されることが必要です。

7. プログラム運用マニュアル

「内科専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバック記録」および「指導者研修計画の実施記録」は、J-OSLER を用います。

「新百合ヶ丘総合病院内科専攻医研修マニュアル（資料4）」と「新百合ヶ丘総合病院内科専門研修指導医マニュアル（資料5）」とを別に示します。

8. 内科専門研修委員会の運営計画

1) 新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム管理委員会

内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図り、プログラムの管理運営を行います。委員会の主な役割を以下に示します。

- プログラム作成と改善
- CPC、JMECC 等の開催
- 適切な評価の保証
- プログラム修了判定
- 各施設の研修委員会への指導権限を有し、同委員会における各専攻医の進達状況の把握、問題点の抽出、解決、および各指導医への助言や指導の最終責任を負います。

内科研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者、事務局代表者、内科診療責任者および連携施設担当者で構成されます。また、オブザーバーとして、内科専攻医が委員会会議の一部に参加することがあります。

2) 内科専門研修委員会

新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラムでは、基幹施設である新百合ヶ丘総合病院と連携施設で、内科専門研修施設群を作り、内科専門研修委員会を設置します。

委員長は専門医に関する情報を定期的に共有するため、年2回内科専門研修管理委員会を開催します。委員会では、基幹施設と連携施設の前年度診療実績、内科専門研修指導医数、内科専攻医数、学術活動、施設状況、サブスペシャルティ領域の専門医数などの報告を行います。

3) 指導者研修

指導の標準化のため、日本内科学会作成「内科専門研修カリキュラム」に則した指導をします。指導医は順次、厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会を受講します。指導者研修の実施記録として、J-OSLER を用います。

9. 内科専攻医の就業環境整備

就業は労働基準法や医療法を遵守します。専門研修 2 年間は新百合ヶ丘総合病院の就業規則で、連携施設での 1年間はその連携施設の就業規則に則ることを原則とします。

基幹施設の新百合ヶ丘総合病院は、

・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。
・新百合ヶ丘総合病院の常勤医としての労務環境は保証されています。
・メンタルストレス、ハラスメントには、病院総務課が対処します。
・男性・女性別に更衣室、仮眠・当直室、シャワー室が整備されています。
・近隣に病院に関連する保育所があり、利用は可能です。
・専攻医の労働時間、当直回数などについて、内科専門研修プログラム管理委員会で報告されます。
・総括評価を行う際に、専攻医は研修施設に対する評価を行い、その結果は内科専門研修プログラム管理委員会で報告されます。

10. 内科専門研修プログラムの改善方法

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLERを用いて行われた無記名式逆評価の集計結果を、年に 2 回（9月と3月を予定）担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム統括委員会で検討し、プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

無記名であるため、個々の専攻医には不利益は生じません。

2) 専攻医等からの評価をシステム改善に繋げるプロセス

研修委員会、プログラム管理委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

(1) 即時改善を要する事項
(2) 年度内に改善を要する事項
(3) 数年をかけて改善を要する事項
(4) 内科領域全体で改善を要する事項
(5) 特に改善を要しない事項

なお、施設群内で解決が困難である問題が生じた場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先として対応します。

- 担当指導医、施設の研修委員会、プログラム管理委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して研修プログラムを評価します。

- 担当指導医、研修委員会、プログラム管理委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタします。

3) 研修に対する監査・調査への対応

内科領域の専門医が互いに専門研修プログラムを形成的に評価し、自律的に改善努力を行うため、求めに応じて日本専門医機構内科領域研修委員会のサイトビジットを適宜受けます。

その評価をもとに、新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラムの改善を行います。

4) 指導医の指導者講習受講

指導医には、厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨しています。

指導者研修の実施記録として、J-OSLER を用います。

11. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修

やむを得ない事情により内科領域内でのプログラムの移動が必要になった場合、J-OSLER を活用することにより、これまでの研修内容が可視化され、移動する新しいプログラムにおいても、移動後に必要とされる研修内容が明確になります。これに基づき、新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を可能とします。

他の領域から内科領域での専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期臨床研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらにプログラムの統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会が行います。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たし、休職期間が 6 か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。

短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日 8 時間、週 5 日を基本単位とする）を行うことによって、研修実績に加算されます。

留学期間は、原則として研修期間として認めません。

別表 1

内科専攻研修において求められる「症例数」、「疾患群」、「病歴提出数」について（専門研修プログラム整備基準より）

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2　修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが，他に異なる15疾患群の経験を加えて，合計56疾患群以上の経験とする．

※3　外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する．

例）「内分泌」2例+「代謝」1例，「内分泌」1例+「代謝」2例

※5　初期臨床研修時の症例は，各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，最大5割までその登録が認められる．

別表 2　新百合ヶ丘総合病院 診療科別入院診療実績（2025 年 診療科別年間入院患者数）

	年間のべ外来患者数	年間のべ入院患者数	消化器	循環器	内分泌	糖尿病	腎臓	呼吸器	血液	神経	膠原病	一般内科
新百合ヶ丘総合病院	342,204	174,366	1,744	1,214	182		451	870	385	386	31	140
サブスペシャルティ研修 可能領域			◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎		

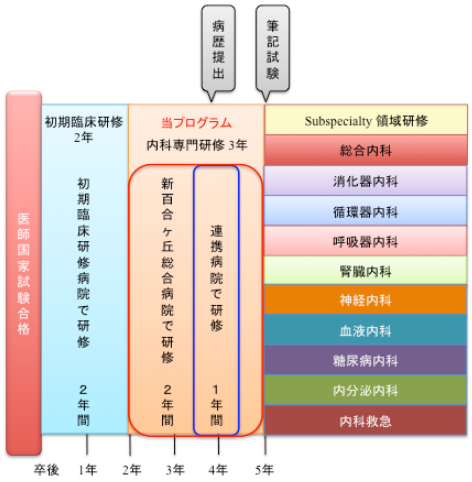
別表 3　研修施設群　概要　(2024 年)

	病床数	内科 病床数	内科 診療科数	内科 指導医数	内科 専門医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数	年間のべ 外来患者数	年間 退院患者数
新百合ヶ丘総合病院	563	156	13	31	9	29	3	131,829	5,356
北里大学病院	1,130	367	8	66	29	68	17	214,421	9,260
国際医療福祉大学成田病院	642	300	10	30	14	36	15	117,301	4,229
国際医療福祉大学三田病院	291	80	7	8	2	15	4	86,693	2,219
国際医療福祉大学熱海病院	269	81	8	10	4	10	10	61,489	1,945
聖マリアンナ医科大学病院	955	407	10	113	41	88	18	229,156	10,284
総合東京病院	451	109	6	6	23	1	0	57,380	3,532
総合南東北病院	461	100	5	8	9	7	4	116,738	3,982
茅ヶ崎市立病院	401	183	8	15	0	14	6	96,775	4,684
帝京大学医学部附属溝口病院	400	185	3	15	5	17	10	46,751	2,846
東海大学医学部付属病院	804	288	8	64	47	58	16	240,285	7,549
東京医科大学病院	904	258	13	84	45	79	17	227,327	8,536
東京医療センター	640	218	11	39	6	34	1	105,777	6,847
東京科学大学病院	758	254	11	122	0	77	4	142,679	4,226
東京都立広尾病院	408	125	10	17	7	13	9	47,690	2,960
東京山手メディカルセンター	398	158	8	28	1	16	4	102,079	3,723
東北医科薬科大学病院	600	247	10	49	0	50	10	106,301	6,531
平塚市民病院	416	148	5	15	3	10	4	60,444	3,864
藤沢湘南台病院	330	60	8	4	1	6	1	32,306	2,433
横須賀市立総合医療センター	450	165	9	13	10	18	7	53,590	3,440
横浜栄共済病院	430	170	7	14	21	14	2	78,441	5,805
横浜市立大学附属病院	671	173	13	47	40	67	8	167,951	6,925
横浜労災病院	650	231	10	25	12	33	8	238,272	7,120

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー 膠原病	感染症	救急
新百合ヶ丘総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北里大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X/○	△	○
国際医療福祉大学成田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際医療福祉大学三田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際医療福祉大学熱海病院	△	○	○	○	○	○	○	X	○	△	△	○
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合東京病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○
総合南東北病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	△	△
茅ヶ崎市立病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
帝京大学医学部附属溝口病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
東海大学医学部付属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	X	○	○
東京医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京科学大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立広尾病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○/△	○	○
東京山手メディカルセンター	○	○	○	△	○	○	○	○	X	○	○	○
東北医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平塚市民病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○
藤沢湘南台病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○/△	○	○
横須賀市立総合医療センター	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	△	○
横浜栄共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別表 4　新百合ヶ丘総合病院　内科医数 (2026 年 5 月現在)

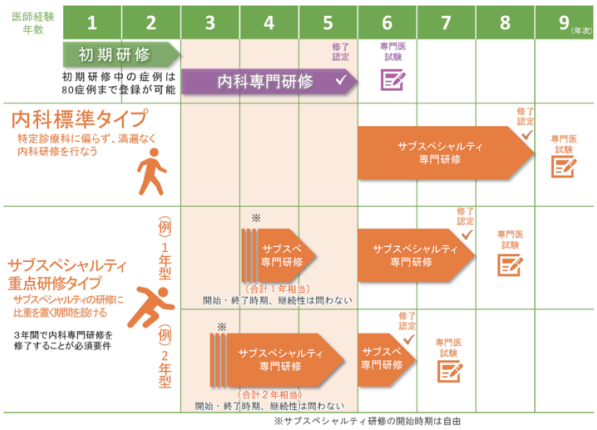
診療科	医師数	総合内科専門医	内科専門医	内科指導医	内科専攻医
一般内科	6	3	0	1	0
消化器内科	16	8	0	10	3
循環器内科	10	5	3	5	2
内分泌・糖尿病内科	6	1	1	1	3
腎臓内科	6	4	1	4	2
呼吸器内科	10	5	2	6	2
血液内科	4	3	0	4	0
脳神経内科	6	1	2	2	2
膠原病内科	1	1	0	1	0
合計	65	31	9	34	14



別図 1　新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム　概念図

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	一般内科			消化器			循環器			呼吸器		
	• JMECCを受講 • 20疾患群60症例以上、病歴要約10編以上を登録 • 初診を含む一般内科外来											
2年次	糖尿病 内分泌			血液			脳神経			腎臓		
	• 45疾患群120症例以上、病歴要約全29編を登録 • 初診を含む一般内科外来											
3年次	連携病院・内科から選択											
	• 未経験の診療疾患群を積極的に受け持つ • 56疾患群160症例以上を経験し、研修内容を登録											
1-3年次	・CPC、医療倫理研修会、医療安全研修会、感染対策講習会に参加する。 ・学会発表あるいは論文発表を2件以上行う。											

別図 2　内科専門研修ローテーションの一例



別図 3　内科専門研修と内科スペシャルティ分野専門研修の概念図（連動研修）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	朝カンファレンス 入院患者診療	内科（総合） 初診外来	上部消化管内視鏡	内科外来 （subspecialty）	上部消化管内視鏡	入院患者診療
午後	下部消化管内視鏡	ERCP	下部消化管内視鏡	治療（RFA, EISなど）	内科救急診療	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	
	消化器 カンファレンス	肝疾患治療 カンファレンス	抄読会	病棟カンファレンス	内視鏡 カンファレンス	

別図 4　新百合ヶ丘総合病院　週間スケジュール（例：消化器内科）

資料 1　新百合ヶ丘総合病院　内科専攻医研修マニュアル

1. 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科領域の専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医は疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて市民の健康に積極的に貢献することで、国民の信頼を獲得することが求められています。内科専門医が関わる場は多岐にわたりますが、それぞれの場において、最新の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営する使命があります。

基幹病院である新百合ヶ丘総合病院がある神奈川県川崎北部医療圏は、2010年国勢調査において人口820,047人、人口増加率6.75%であり、日本の中でも有数の人口増加圏です。しかしながら、人口10万人あたりの病院数は全国平均6.62と比較し川崎北部医療圏は2.44と低く、各病院の医療における負担増加が懸念されますが、医療の質を落とすことなく、的確な診療を行うことが必要です。こうした都市医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるよう研修を行うことで、日本を支える内科専門医を育成したいと考えています。

・内科専門研修終了後の勤務形態と勤務先；

内科常勤医師；内科専攻医

専攻医の希望により、内科系救急医、総合内科医（Generalist）、内科系Subspecialistとして勤務が可能です。

勤務先；医療法人社団 三成会　新百合ヶ丘総合病院

〒215-0026　神奈川県川崎市麻生区古沢都古255

TEL 044-322-9991　FAX 044-322-0529

2. 専門研修の期間

3年間（図1.「新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム（概念図）」参照）

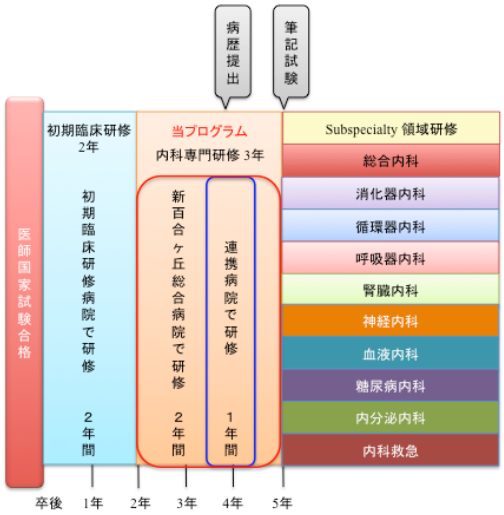


図1.　新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム（概念図）

専攻医の希望により、内科専門研修期間中にサブスペシャルティ領域を研修することを認めますが（連動研修・並行研修）、このサブスペシャルティ専門研修としての指導と評価は、サブスペシャルティ指導医が行うこととします（図2）。

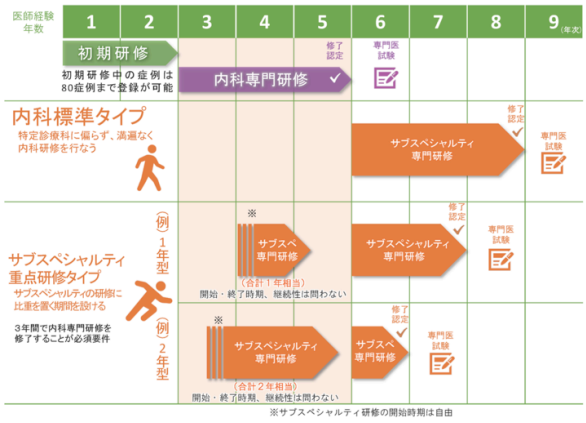


図 2　内科専門研修と内科スペシャルティ分野専門研修の概念図（連動研修）

3. 研修施設群の各施設名

基幹施設；新百合ヶ丘総合病院	神奈川県川崎市麻生区
連携施設；北里大学病院	神奈川県相模原市南区
連携施設；国際医療福祉大学成田病院	千葉県成田市
連携施設；国際医療福祉大学三田病院	東京都港区

連携施設；国際医療福祉大学熱海病院	静岡県熱海市
連携施設；聖マリアンナ医科大学病院	神奈川県川崎市宮前区
連携施設；総合東京病院	東京都中野区
連携施設；総合南東北病院	福島県郡山市
連携施設；茅ヶ崎市立病院	神奈川県茅ヶ崎市
連携施設；帝京大学医学部附属溝口病院	神奈川県川崎市高津区
連携施設；東海大学医学部付属病院	神奈川県伊勢原市
連携施設；東京医科大学病院	東京都新宿区
連携施設；東京医療センター	東京都目黒区
連携施設；東京科学大学病院	東京都文京区
連携施設；東京都立広尾病院	東京都渋谷区
連携施設；東京山手メディカルセンター	東京都新宿区
連携施設；東北医科薬科大学病院	宮城県仙台市
連携施設；平塚市民病院	神奈川県平塚市
連携施設；藤沢湘南台病院	神奈川県藤沢市
連携施設；横須賀市立総合医療センター	神奈川県横須賀市
連携施設；横浜栄共済病院	神奈川県横浜市栄区
連携施設；横浜市立大学附属病院	神奈川県横浜市金沢区
連携施設；横浜労災病院	神奈川県横浜市港北区

4. プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

・新百合ヶ丘総合病院内科研修プログラム管理委員会

新百合ヶ丘総合病院

統括責任者・委員長	井廻 道夫
プログラム管理者	広石 和正
研修委員会委員長・腎臓部門責任者	篠崎 倫哉
事務局代表	櫻井 智明
循環器部門責任者	櫻井 馨
神経部門責任者	眞木 二葉
呼吸器部門責任者	永井 厚志
内分泌・代謝部門責任者	佐倉 宏
血液部門責任者	田内 哲三

総合内科部門責任者　　川島 彰人

連携施設；北里大学病院 研修委員会委員長	宮塚 健
連携施設；国際医療福祉大学成田病院 研修委員会委員長	村井 弘之
連携施設；国際医療福祉大学三田病院 研修委員会委員長	合屋 雅彦
連携施設；国際医療福祉大学熱海病院 研修委員会委員長	山田 佳彦
連携施設；聖マリアンナ医科大学病院 研修委員会委員長	出雲 昌樹
連携施設；総合東京病院 研修委員会委員長	菅原 崇
連携施設；総合南東北病院 研修委員会委員長	金子 知香子
連携施設；茅ヶ崎市立病院 研修委員会委員長	望月 孝俊
連携施設；帝京大学医学部附属溝口病院 研修委員会委員長	菊池 健太郎
連携施設；東海大学医学部付属病院 研修委員会委員長	水間 敦士
連携施設；東京医科大学病院 研修委員会委員長	四本 美保子
連携施設；東京医療センター 研修委員会委員長	上野 博則
連携施設；東京科学大学病院 研修委員会委員長	服部 高明
連携施設；東京都立広尾病院 研修委員会委員長	田島 真人
連携施設；東京山手メディカルセンター 研修委員会委員長	笠井 昭吾
連携施設；東北医科薬科大学病院 研修委員会委員長	木村 朋由
連携施設；平塚市民病院研修委員会委員長	高木 俊介
連携施設；藤沢湘南台病院 研修委員会委員長	松田 玲圭
連携施設；横須賀市立総合医療センター研修委員会委員長	岩澤 孝昌
連携施設；横浜栄共済病院研修委員会委員長	山田 昌代
連携施設；横浜市立大学附属病院研修委員会委員長	藤田 浩司
連携施設；横浜労災病院研修委員会委員長	山崎 悦子

・内科指導医；(表1, 表2)

消化器内科	井廻 道夫, 他9名
循環器内科	櫻井 馨, 他4名
神経内科	眞木 二葉, 他1名
腎臓内科	篠崎 倫哉, 他3名
呼吸器内科	永井 厚志, 他5名
糖尿病内科	佐倉 宏

血液内科	田内 哲三, 他3名
膠原病リウマチ内科	荻原 秀樹
一般内科	川島 彰人

北里大学病院	指導医	66名	（2024年）
国際医療福祉大学成田病院	指導医	30名	（2024年）
国際医療福祉大学三田病院	指導医	8名	（2024年）
国際医療福祉大学熱海病院	指導医	10名	（2024年）
聖マリアンナ医科大学病院	指導医	113名	（2024年）
総合東京病院	指導医	6名	（2024年）
総合南東北病院	指導医	8名	（2024年）
茅ヶ崎市立病院	指導医	15名	（2024年）
帝京大学医学部附属溝口病院	指導医	15名	（2024年）
東海大学医学部付属病院	指導医	64名	（2024年）
東京医科大学病院	指導医	84名	（2024年）
東京医療センター	指導医	39名	（2024年）
東京科学大学病院	指導医	122名	（2024年）
東京都立広尾病院	指導医	17名	（2024年）
東京山手メディカルセンター	指導医	28名	（2024年）
東北医科薬科大学病院	指導医	49名	（2024年）
平塚市民病院	指導医	15名	（2024年）
藤沢湘南台病院	指導医	4名	（2024年）
横須賀市立総合医療センター	指導医	13名	（2024年）
横浜栄共済病院	指導医	14名	（2024年）
横浜市立大学附属病院	指導医	47名	（2024年）
横浜労災病院	指導医	25名	（2024年）

表 1. 新百合ヶ丘総合病院内科医・専門医・指導医数（2026年4月現在）

診療科	医師数	総合内科専門医	内科専門医	内科指導医	内科専攻医
一般内科	6	3	0	1	0
消化器内科	16	8	0	10	3
循環器内科	10	5	3	5	2
内分泌・糖尿病内科	6	1	1	1	3
腎臓内科	6	4	0	4	2
呼吸器内科	9	6	0	6	2
血液内科	4	3	0	4	0
脳神経内科	6	1	2	2	2
膠原病内科	1	1	0	1	0
合計	64	32	6	34	14

表 2.　研修施設群　概要（2024年）

	病床数	内科 病床数	内科 診療科数	内科 指導医数	内科 専門医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数	年間のべ 外来患者数	年間 退院患者数
新百合ヶ丘総合病院	563	156	13	31	9	29	3	131,829	5,356
北里大学病院	1,130	367	8	66	29	68	17	214,421	9,260
国際医療福祉大学成田病院	642	300	10	30	14	36	15	117,301	4,229
国際医療福祉大学三田病院	291	80	7	8	2	15	4	86,693	2,219
国際医療福祉大学熱海病院	269	81	8	10	4	10	10	61,489	1,945
聖マリアンナ医科大学病院	955	407	10	113	41	88	18	229,156	10,284
総合東京病院	451	109	6	6	23	1	0	57,380	3,532
総合南東北病院	461	100	5	8	9	7	4	116,738	3,982
茅ヶ崎市立病院	401	183	8	15	0	14	6	96,775	4,684
帝京大学医学部附属溝口病院	400	185	3	15	5	17	10	46,751	2,846
東海大学医学部付属病院	804	288	8	64	47	58	16	240,285	7,549
東京医科大学病院	904	258	13	84	45	79	17	227,327	8,536
東京医療センター	640	218	11	39	6	34	1	105,777	6,847
東京科学大学病院	758	254	11	122	0	77	4	142,679	4,226
東京都立広尾病院	408	125	10	17	7	13	9	47,690	2,960
東京山手メディカルセンター	398	158	8	28	1	16	4	102,079	3,723
東北医科薬科大学病院	600	247	10	49	0	50	10	106,301	6,531
平塚市民病院	416	148	5	15	3	10	4	60,444	3,864
藤沢湘南台病院	330	60	8	4	1	6	1	32,306	2,433
横須賀市立総合医療センター	450	165	9	13	10	18	7	53,590	3,440
横浜栄共済病院	430	170	7	14	21	14	2	78,441	5,805
横浜市立大学附属病院	671	173	13	47	40	67	8	167,951	6,925
横浜労災病院	650	231	10	25	12	33	8	238,272	7,120

5. 各施設での研修内容と期間

当プログラムでは、一人一人に合った総合的な疾病予防や診断・治療を研修し、円滑に医療が実践できる考え方や技術を修得することを目的とし、都道府県を越えた特色のある連携病院での研修を行います。

基幹施設である新百合ヶ丘総合病院で2年間、連携施設で計1年間の研修を行います（図,表3）。各内科診療科での研修期間は、専攻医の意見をもとにプログラム管理委員会で調整します。表3にローテーションの一例を示します。

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などをもとに、3年目の研修する診療科を調整し決定します。

当プログラムでは、1）内科標準タイプ（特定診療科に偏らず、満遍なく内科研修を行う）、2）サブスペシャルティ重点研修タイプ（内科専門研修中にサブスペシャルティ研修に比重を置く期間を設ける）を設定していますが、専攻医がどちらか一方を選択できます（図2）。サブスペシャルティ重点研修タイプでは、サブスペシャルティ研修期間は1-2年間としますが、サブスペシャルティ指導医が指導・評価を行う必要があります。消化器内科、循環器内科、神経内科、腎臓内科、呼吸器内科、糖尿病内科でサブスペシャルティ研修が可能です。

表 3.　ローテーションの一例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	一般内科			消化器			循環器			呼吸器		
	・JMECCを受講 ・20疾患群60症例以上、病歴要約10編以上を登録 ・初診を含む一般内科外来											
2年次	糖尿病 内分泌			血液			脳神経			腎臓		
	・45疾患群120症例以上、病歴要約全29編を登録 ・初診を含む一般内科外来											
3年次	連携病院・内科から選択											
	・未経験の診療疾患群を積極的に受け持つ ・56疾患群160症例以上を経験し、研修内容を登録											
1−3年次	・CPC、医療倫理研修会、医療安全研修会、感染対策講習会に参加する。 ・学会発表あるいは論文発表を2件以上行う。											

・主担当医として、初診、入院〜退院、外来管理まで可能な範囲で経時的に診療を継続し、一人一人の患者において全身状態、心理状態、社会的背景、療養環境調整などを包括する全人的医療を研修します。
・専攻医1人あたりの受け持ち患者数については、受け持ち患者の重症度などを加味して、指導医やサブスペシャルティ上級医の判断で5-10名程度を受け持ちます。
・各領域横断的に患者を受け持つ可能性があります。
・表4は、消化器内科研修時の週間スケジュール例です。
・当直勤務は、月2-4回を予定しています。
・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会のほか、プログラム全体での（連携病院を含めた）カンファレンスに参加する予定です。

表 4.　消化器内科　週間スケジュール (例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	朝カンファレンス 入院患者診療	内科（総合） 初診外来	上部消化管内視鏡	内科外来 （subspecialty）	上部消化管内視鏡	入院患者診療
午後	下部消化管内視鏡	ERCP	下部消化管内視鏡	治療（RFA、EISなど）	内科救急診療	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	
	消化器 カンファレンス	肝疾患治療 カンファレンス	抄読会	病棟カンファレンス	内視鏡 カンファレンス	

6. カリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

表5に2021年の新百合ヶ丘総合病院の診療実績とサブスペシャルティ研修可能な内科領域を示します。

表 5.　2025年入院診療実績と研修可能な内科サブスペシャルティ領域

	年間のべ外来患者数	年間のべ入院患者数	消化器	循環器	内分泌	糖尿病	腎臓	呼吸器	血液	神経	膠原病	一般内科
新百合ヶ丘総合病院	342,204	174,366	1,744	1,214	182		451	870	385	386	31	140
サブスペシャルティ研修 可能領域			◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎		

7. 本整備基準に示す年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

年次ごとに以下の目標を定めます。

表 7　内科専攻研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について（専門研修プログラム整備基準より）

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2　修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが，他に異なる15疾患群の経験を加えて，合計56疾患群以上の経験とする．

※3　外来症例による病歴要約の提出を全体の7例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する．

例）「内分泌」2例+「代謝」1例，「内分泌」1例+「代謝」2例

※5　初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，最大5割までその登録が認められる．

○ 専門研修１年:

• 症例：カリキュラムに定める70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については指導医の評価と承認が行われます。

• 専門研修修了に必要な病歴要約を10 編以上記載して J-OSLER に登録します。

• 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようになります。

• 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360 度評価を複数回行うことで態度を評価し、担当指導医がフィードバックを行います。

○ 専門研修２年:

• 症例：カリキュラムに定める70 疾患群のうち、通算で45 疾患群以上の経験をし、 J-OSLER にその研修内容を登録します。

• 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。

• 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようになります。

• 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○ 専門研修３年:

• 症例：主担当医としてカリキュラムに定める全70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。

　修了認定には、主担当医として通算で最低56 疾患群以上の経験と計120 症例以上（外来症例は1 割まで含むことができます）を経験し、 J-OSLER にその研修内容を登録します。初期研修期間中の症例は、最大5割；60症例まで登録が可能です。

• 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。

• 既に専門研修2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂を促します。

• 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようになります。

• 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

8. 自己評価と指導医評価、ならびに360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

年に2 回（8月と2月）、自己評価と指導医評価、ならびに360 度評価を行います。その結果を踏まえて、担当指導医は専攻医に改善点に対する指導を行い、改善を促します（9月と3月）。

9. プログラム修了の基準

日本内科学会専攻医登録評価システムに以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

(1) 主担当医としてカリキュラムに定める全70 疾患群のすべてを経験し、計200 症例以上（外来症例は20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。但し修了認定には、主担当医として通算で56 疾患群以上の経験と計120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の1 割まで含むことができます）を経験し、登録する必要があります（表5参照）。

(2) 所定の受理された29 編の病歴要約（初期研修期間中の症例は14編まで）

(3) 所定の2 編の学会発表または論文発表

(4) JMECC 受講

(5) プログラムで定める講習会受講

(6) 指導医と2名以上のメディカルスタッフによる360 度評価の結果に基づき、医師としての適正に疑問がないこと。

10. 専門医申請にむけての手順

1) 必要書類

(1) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

(2) 履歴書

(3) 新百合ヶ丘総合病院内科専門医研修プログラム修了証のコピー

2) 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

3) 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります（図「内科専門研修プログラム概念図」参照）。

プログラム修了後に内科専門医 筆記試験を受験することができ、合格した後に内科専門医を取得できます。

11. プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

プログラムにおける待遇；新百合ヶ丘総合病院　内科専攻医

総合東京病院、総合南東北病院での待遇；内科専攻医（新百合ヶ丘総合病院からの出向）

他病院での待遇は、その病院の規定に準ずる。

給料；　500,000円/月（新百合ヶ丘総合病院）

12. プログラムの特色

- 本プログラムは、神奈川県川崎北部医療圏にある新百合ヶ丘総合病院を基幹病院とし、北里大学病院、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学熱海病院、聖マリアンナ医科大学病院、総合東京病院、総合南東北病院、茅ヶ崎市立病院、帝京大学医学部附属溝口病院、東海大学医学部付属病院、東京医科大学病院、東京医療センター、東京科学大学病院、東

京都立広尾病院、東京山手メディカルセンター、東北医科薬科大学病院、平塚市民病院、藤沢湘南台病院、横須賀市立総合医療センター、横浜栄共済病院、横浜市立大学附属病院、横浜労災病院を連携病院としています。

- 基幹施設2年間、連携施設1年間の研修とします。
- 基幹施設である新百合ヶ丘総合病院は、2012年8月1日に開院し、地域医療への貢献、高度先端医療の実践、最良の安心を得られる医療を目標に掲げています。
- 救急患者を積極的に受け入れており、さまざまな内科救急疾患に対応できる能力を養えます。高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携についても経験できます。
- 新百合ヶ丘総合病院は、放射線治療のためのTrueBeam®、ロボット手術に使用するda Vinci®、診断用128列マルチスライスCT、PET-CT、3テスラMRIなど最先端の医療機器を備え、高度な先進医療や予防医学を実践し、救急医療やがん診療にも貢献しています。
- 新百合ヶ丘総合病院では、各領域の経験豊富な指導医のもと、内科各領域において充実した指導を受けることができます。これまでの診療実態からは、各内科2-3ヶ月間のローテーションを行うと2年間研修することで（専攻医2年修了時）、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群（資料1「内科研修カリキュラム項目表」参照）すべてを経験することが可能と考えられます。少なくとも120症例以上を経験し、 J-OSLER に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（表5「疾患群　症例　病歴要約　到達目標」参照）。
- 連携している各大学病院では、各専門領域において先進的の医療を経験することが可能です。さらに、実際の診療やカンファレンスを通じて、比較的稀な疾患についても研修する機会があります。研修できる診療科には制限があり、希望時には研修管理委員会で調整を試みます。
- 連携している市中の中核病院での研修では、様々な疾患を有する患者を多く経験し、質の高い医療・介護・福祉医療を修得することができます。一人ひとりに合った総合的な疾病予防や診断・治療を研修し、円滑に医療が実践できる考え方や技術を修得することを目的とし、特色のある連携病院での研修を行います。

- 総合南東北病院での研修では、地域医療の重要性を理解するとともに、可塑性のある内科専門医として実践的な医療が行えるよう訓練されます。全人的な内科医療を行うにあたり必要な知識や基本的臨床能力が、多数の症例を経験することで早期に身につくように研修が行われます。
- 基幹施設である新百合ヶ丘総合病院での2年間の研修と、関連施設群での1年間の研修で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群（資料1「内科研修カリキュラム項目表」参照）のうち、少なくとも56疾患群、120症例以上を経験し（可能であれば70疾患群、200症例）、 J-OSLER に登録できます（表5「疾患群　症例　病歴要約　到達目標」参照）。

13. 継続した サブスペシャルティ 領域の研修の可否

内科専門医取得後は希望により、各診療科での内科系サブスペシャリストとしての研修が可能です。また、基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各サブスペシャルティ領域に重点を置いた専門研修も可能です。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて行われた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム統括委員会で検討し、プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価をシステム改善に繋げるプロセス

研修委員会、プログラム管理委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については、プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

(1) 即時改善を要する事項
(2) 年度内に改善を要する事項
(3) 数年をかけて改善を要する事項
(4) 内科領域全体で改善を要する事項
(5) 特に改善を要しない事項

- 施設群内で解決が困難である問題が生じた場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先として対応します。
- 担当指導医、施設の研修委員会、プログラム管理委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して研修プログラムを評価します。
- 担当指導医、研修委員会、プログラム管理委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタします。

3) 研修に対する監査・調査への対応

内科領域の専門医が互いに専門研修プログラムを形成的に評価し、自律的に改善努力を行うため、求めに応じて日本専門医機構内科領域研修委員会のサイトビジットを適宜受けます。図3に専攻医、指導医、内科領域研修委員会との関係を示します。

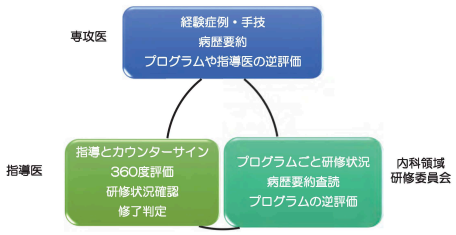


図3.　専攻医、指導医、内科領域研修委員会との関係

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合

相談先；日本専門医機構内科領域研修委員会

16. その他

当プログラムでの研修についての質問は下記に問い合わせてください。

随時、院内見学を受け付けますので、希望者は事前に連絡をお取りください。

内科専門研修担当；新百合ヶ丘総合病院　消化器内科　広石　和正

〒215-0026　神奈川県川崎市麻生区古沢都古255

TEL：044-322-9991　FAX：044-322-0529

URL：https://www.shinyuri-hospital.com/recruit/intern/internal_sr_resident.html

資料 2　新百合ヶ丘総合病院 内科指導医マニュアル

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は，専攻医がwebにて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、その都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や臨床研修委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャルティの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルティの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医はサブスペシャルティ上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2. 専門研修の期間

- 年次到達目標は、別表1「新百合ヶ丘総合病院内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
- 担当指導医は、臨床研修委員会と協働して、2か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医によるJ-OSLERへの記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

- 担当指導医は、臨床研修委員会と協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床研修委員会と協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、臨床研修委員会と協働して，毎年9月と3月（予定）とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3. 専門研修の期間

- 担当指導医はsubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価を行います。
- J-OSLERでの専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリー作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医にJ-OSLERでの当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4. 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床

研修委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。

- 担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

専攻医によるJ-OSLERを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6. 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年9月と3月の他に）で、J-OSLERを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

新百合ヶ丘総合病院給与規定によります。

8. 指導者講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修の実施記録として、J-OSLERを用います。

9. 日本内科学会作製の冊子「内科専門研修カリキュラム」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「内科専門研修カリキュラム」を熟読し、形成的に指導します。

10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11. その他

特になし

別表 1　到達目標

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．

例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，最大 5 割までその登録が認められる．

新百合ヶ丘総合病院内科研修プログラム　施設概要

1)専門研修基幹施設

新百合ヶ丘総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •新百合ヶ丘総合病院内科専攻医として労務環境が保障されています. •メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります. •女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. •病院に関連する保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•内科指導医は 34 名在籍しています.（2026 年 5 月現在） •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長），プログラム管理者（消化器内科部長）が，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年計 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回、2025 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会；年 2 回, 川崎北部心臓血管病フォーラム；年 1 回, 新百合ヶ丘循環器フォーラム；年 1 回, 新百合ヶ丘イブニングカンファレンス；年 1 回, 新百合ヶ丘がんセミナー；年 1 回など）を定期的に開催していますが，専攻医に受講のための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催を予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. •専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 3 体，2025 年度 5 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室，カンファレンスルームなどを整備しています. •研修医専用の研修医室があります. •倫理委員会を設置し，年 1-2 回開催しています.

	•治験管理室を設置しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に 2024 年度に計 1 演題の学会発表をしています．内科専攻医の内科系学会での発表数は 8 演題です。
指導責任者	篠崎　倫哉 【内科専攻医へのメッセージ】 新百合ヶ丘総合病院は，神奈川県川崎北部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に診療します．診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名，日本内科学会総合内科専門医/内科専門医 32 / 6 名 日本消化器病学会専門医 12 名，日本循環器学会専門医 8 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本肝臓学会専門医 8 名ほか
外来・入院患者数	2025 年 年間のべ患者数：外来 342,204 名，入院 174,366 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本認知症学会教育施設 など

2)専門研修連携施設

北里大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•日本医療機能評価機構　認定施設です。 •NPO 法人卒後臨床研修評価機構　認定施設です。 •臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •北里大学病院内科専攻医として労務環境が保障されています. •メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（法人本部人事部および大学病院人事課）があります. •女性専攻医が安心して勤務できるように，シャワー室，当直室が整備されています. •病院と連携する保育施設があり，利用可能です. •病院内に病児、病後児保育室があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•内科指導医は 66 名在籍しています •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（腎臓内科長）が，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けています。 •CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けています。 •プログラムに所属する専攻医を対象に JMECC（年 2 回開催を予定）を受講することが出来ます。 •日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 •70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます。 •専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 23 体，2025 年度 17 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室，カンファレンスルームなどを整備しています. •研修医専用の研修医室、専攻医専用の病棟医室、研修医および病棟医専用のシャワー室、当直室があります. •倫理委員会を設置し，8 月を除く毎月開催しています. •臨床研究推進センター(治験部門)を設置しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	竹内　康雄 【内科専攻医へのメッセージ】

	本プログラムでは、内科専門医としての確かな臨床能力に加え、患者を全人的に診る姿勢、生涯にわたり学び続ける姿勢を重視しています。多様な研修施設群での経験を通じ、地域・社会から信頼される内科専門医の育成を目指します。
専門医数 （常勤医）	139 名　(内科系関連 15 学会認定の専門医数)
外来・入院患者数	外来患者数：50,836 名（月平均）　1 日平均　2,460 名 入院患者数：28,678 名（月平均　在院＋退院）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会　認定医制度教育病院 ・日本消化器内視鏡学会　専門医制度指導施設 ・日本消化管学会　胃腸科指導施設 ・日本消化器病学会　専門医制度認定施設 ・日本肝臓学会　認定施設 ・日本胆道学会　認定指導医制度指導施設 ・日本膵臓学会　指導施設 ・日本糖尿病学会　認定教育施設 ・日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 ・日本高血圧学会　専門医認定施設 ・日本循環器学会　認定循環器専門医研修施設 ・日本腎臓学会　研修施設 ・日本血液学会　認定血液研修施設 ・日本神経学会　専門医制度教育施設 ・日本脳卒中学会　専門医認定制度研修教育病院 ・日本頭痛学会　頭痛学会認定教育施設 ・日本リウマチ学会　教育施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ・日本呼吸器学会　専門医制度認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会　専門医制度認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡専門医制度認定施設　など など

国際医療福祉大学成田病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •国際医療福祉大学成田病院専攻医として労務環境が保障されています. •安全衛生委員会がメンタルストレスに適切に対処します. •ハラスメント防止委員会が院内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 34 名在籍しています（下記）. •後期研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，プログラム管理委員会が連携施設群との連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2023 年度 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	脳神経内科部長 村井 弘之
指導医数& 各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名，日本内科学会総合内科専門医 32 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名ほか

外来・入院患者数	内科外来患者 7,917 名（1 ヶ月平均）　内科入院患者 293 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
認定施設 （内科系）	日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ほか

国際医療福祉大学三田病院

1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は公認心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各 施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します。
2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医が 11 名在籍しています（2024 年 4 月現在） ・基幹プログラムに対する研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理しています。 ・内科専攻医連絡会を開催し、新専門医制度化で専門医試験を合格した先輩医師から資格取得に向けたアドバイスやフォローを行います。 ・内科系にて剖検が実施される場合、病理医と共に専攻医にも剖検に参加していただき、専門医試験の受験に必要な剖検数を学ばせます。 ・JMECC を定期的にグループ内にて開催し、内科救急に必要な処置等を学ぶことも可能です。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 12 分野（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急）で定常的な専門研修を可能としています。基幹施設にて不足している領域を経験できるよう、各診療科をローテーションすることも可能です。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表をしています。 また、内科サブスペシャリティ領域の学会でも発表を行うことも出来ます。
内科専攻医へのメッセージ	合屋 雅彦（循環器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学三田病院内科では、専攻医が希望するサブスペシャルティ領域を重点的に研修するコースや、内科の領域を偏り無く学ぶ事を目的としたコースを、充実した３年間のスケジュールからなるプログラムを提供しています。この研修期間で内科学という学問を通し、社会人としての常識・モラルを持った、才能豊かな内科専門医となることを目標としています。 地域医療を経験するため、連携施設（国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、山王病院など）での研修期間を設けています。 充実した各科教育スタッフの指導により、幅広い総合内科的視点を基盤とした、優秀な内科専門医の育成ができると考えています。
指導医数	日本内科学会指導医 11 名，日本内科学会総合内科専門医 15 名，

（常勤医）	日本消化器病学会専門医　4 名，日本肝臓学会専門医　1 名， 日本循環器学会専門医　8 名，日本内分泌学会専門医　2 名， 日本糖尿病学会専門医　2 名，日本腎臓病学会専門医　0 名， 日本呼吸器学会専門医　4 名，日本血液学会専門医　1 名， 日本神経学会専門医　3 名，日本アレルギー学会専門医　1 名， 日本リウマチ学会専門医　1 名，日本感染症学会専門医 0 名， 日本老年医学会専門医 0 名，ほか.
JMECC　開催	2023 年度実績　0 回　※グループ病院 PG での開催時に参加可。
外来・入院患者数	2023 年度実績　外来患者　256,684 名　※外来延べ患者数 入院患者　75,788 名　※入院延べ患者数、退院除く。
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患別項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら、幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、新型コロナウイルス感染症の治療や地域に根ざした医療、病診、疾病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

国際医療福祉大学熱海病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・後期臨床研修医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する組織（安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が８名在籍しています。 ・研修管理委員会を設置して、病院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績、医療安全２回、感染対策２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績１０回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を定期的に開催（2024 年度１回予定）し、専攻医に受講できるための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、血液、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症 および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	山田 佳彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学は４つの附属病院を有し、それぞれの地域で人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。新しい専門医制度の内容に即して初期臨床研修修了後に院内内科系診療科が協力・連

	携するだけでなく、都市部や病院隣接の異なる医療圏での研修を通して質の高い内科医を育成するプログラムで行っていきます。また単に内科医を養成するだけでなく、全人的な医療を目指し、チーム医療・チームケアの体制のもと医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、これからの医療を担える医師を育成することを目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医８名、日本内科学会総合内科専門医７名、 日本消化器病学会消化器病専門医４名、日本肝臓学会肝臓専門医３名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医４名、 日本循環器学会循環器専門医２名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医２名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医２名、日本腎臓学会腎臓専門医２名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医２名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医１名、 日本神経学会神経内科専門医３名、日本脳卒中学会脳卒中専門医１名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医１名　他
外来・入院患者数	外来患者　13,427 名（1 ヶ月平均） 入院患者　　5,296 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち血液（3 疾患群）と膠原病（２疾患群）を除く 65 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携などが経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本老年医学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 　など

聖マリアンナ医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。 ・聖マリアンナ医科大学病院の専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 114 名在籍しています。（2021 年） ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域および多職種参加型の 9 内科合同カンファレンスを定期的に参画し、common disease や様々な症例を学ぶ機会を設けています。 ・CPC を定期的に開催し､内科・病理との幅広いディスカッションに参加する機会が設けられています。 ・JMECC を主催しており、優先的に専攻医が受講することができます。 ・特別連携施設での研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（平均 21 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会（月 1 回）を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年発表をしています。
指導責任者	安田 宏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京と隣接した地域に位置する、地域密着型特定機能病院です。2022 年末に新病院が竣工予定です。年間 6000 台以上の救急車の応需があり、三次急までの様々な救急疾患を経験することができます。
資格取得者数 （常勤医）	日本内科学会指導医 114 名，日本内科学会総合内科専門医 62 名,日本消化器病学会消化器専門医 21 名，日本循環器学会循環器専門医 40 名，日本内分泌学会専門医 6 名､日本糖尿病学会専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 9 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名，日本血液学会血液専門医 7 名、日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本アレルギー学会専門医（内科）5 名，日本リウマチ学会専門医 14 名，日本老年医学会専門医 10 名、日本救急医学会救急科専門医 14 名，他
外来・入院患者数	外来患者：50,424 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者：26,887 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関（画像診断・IVR 部門、核医学部門、放射線治療部門）、日本救急医学会救急科専門医・指導医指定施設、日本麻酔科学会日本病理学会病理専門医制度研修認定施設Ａ、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本核医学会専門医教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設（小児科/ 皮膚科/ ﾘｳﾏﾁ・膠原病・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科）、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本ﾘｳﾏﾁ学会教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本臨床薬理学会専門医制度研修施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本脈管学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定、日本感染症学会研修施設認定、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本老年精神医学会専門医制度認定施設、日本緩和医療学会　認定研修施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会認定研修施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証、日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設、日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設、日本脳神経血管内治療学会　研修施設、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本てんかん学会認定研修施設、

医療法人財団　健貢会　総合東京病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •メンタルストレスに適切に対処する部署があります. •「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策も院内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，当直室などが整備されています. •敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	•内科学会指導医は 3 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設の設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績　医療安全講習 2 回、感染対策講習 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンス(内科・総合診療科・救急)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2020 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（初期研修医、後期研修医向け総合内科実践カンファランス（2016 年度実績 3 回）、循環器カンファランス（2016 年度実績 3 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま す. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2016 年度実績 1 演題）をしています.
指導責任者	菅原 崇 【内科専攻医へのメッセージ】 卒後臨床研修終了後の内科専門研修３年間は,内科臨床医とし修錬し,総合的な実力を育み,専門医を目指す上でも重要な期間となります.さらに多くの症例を経験して深く学習し,種々の技術を習得するととも

	に,外部への発信の機会も得ることができるでしょう.そして、様々な役割を担う地域の中核医療機関で働くことは生涯の大きな財産となり礎となるでしょう.指導医の下ではあっても自分で判断し,行動し，多彩な経験を積み地域に貢献できる医師に成長して頂けたらと考えております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 1 名,日本プライマリ・ケア連合学会指導医 1 名,日本消化器病学会専門医 1 名,日本肝臓学会専門医 1 名,日本消化器内視鏡学会専門医 1 名,日本循環器学会専門医 3 名,日本心血管インターベンション治療学会指導医２名,日本心血管内視鏡学会指導医２名,日本心血管カテーテル治療学会指導医 1 名,日本呼吸器学会専門医 3 名,日本神経学会専門医 1 名,日本老年医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	2018 年　外来患者数 176,956 名（年間延べ数） 2018 年　入院患者数 116,872 名（年間延べ数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 分野、70 疾患群の症例が経験できます.また,24 時間救急医療体制で対応しているため,内科的救急や脳血管疾患救急症例などが経験できます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	回復期リハビリや在宅サービスなど超高齢社会に対応したプライマリケアから急性期医療まで提供できる施設として,地域の病院・クリニックと病診・病病連携を密にしています.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼働認定施設 日本病態栄養学会「栄養管理・ＮＳＴ実施施設」および「栄養管理・指導実施施設」など

一般財団法人　脳神経疾患研究所附属　総合南東北病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •総合南東北病院専攻医として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署があります. •ハラスメント委員会がハ整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 8 名在籍しています •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	神経内科　科長　金子 知香子 若い時に出来るだけたくさんの症例を経験してください。守備範囲を決めるのは自分自身です。当院は軽症例から重症例まで幅広く経験することができます。医師不足に悩む地方都市の中核病院であり、症例や手技の取りあいはありません。臨床の出来ない医師にならないように、臨床の基礎から難病・重症例の対応まで丁寧に指導します。神経内科では脳卒中、神経免疫疾患、神経変性疾患、神経感染症、神経筋疾患など神経救急から慢性期まですべてを経験できます。グル-プ制ではないため多種類の疾患を同時に経験する事も可能です。福島県立医科大学名誉教授である山木悌司先生、現:福島県立医科大学医学部多発性硬化症治学講座・藤原一男教授が在籍され、系統だった神経診察の指導、学会発表・研究・論文指導をしています。 若い時の 3 年間は貴重です。臨床経験を積んだ後、大学院進学、また修練のための他院への移動など、様々な進路にも柔軟に対応できる病院です。出産・育児・介護、また自分自身の病気といったライフ・イベントへのサ

	ポート体制も整っています。臨床医を目指す方、大学に進む研究テーマを探している方、ぜひ貴重な 3 年間で一緒に研鑽を積みましょう。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数：464,572 名（1 年・延人数） 入院患者数：182,003（1 年・延べ人数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 等

茅ヶ崎市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 茅ヶ崎市非常勤医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課健康衛生担当）があります。 • ハラスメント対策委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	• 指導医が 19 名在籍しています。 • 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 医療倫理　1 回、医療安全 2 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス（2021 年度実績　茅ヶ崎内科医会症例検討会 3 回、救急症例検討会 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	• 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 6 演題）を予定しています。
指導責任者	栗山 仁 【内科専攻医へのメッセージ】 茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、茅ヶ崎市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　22 名,日本内科学会総合内科専門医　15 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名,日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名,日本内分泌学会内分泌•代謝専門医 3 名, 日本腎臓病学会専門医 2 名,日本透析医学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名,日本神経学会神経内科専門医 1 名, 日本肝臓学会認定肝臓専門医 5 名,日本アレルギー学会専門医（内科）2 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,532 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,179 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

帝京大学医学部附属溝口病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 帝京大学医学部附属溝口病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医および総務課）があります。 ・ メンタルケア・ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、専攻医も利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 内科指導医は 15 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ ・専門研修に必要な剖検を行っています(2024 年 10 件)。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究を行っており、図書室やインターネット環境も備えています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（月 1 回）しています。 ・ 治験管理室を院内に設置しています。帝京大学の臨床研究センターの利用も可能です。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	原 眞純（統括管理責任者）　菊池 健太郎（研修委員長）

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者　292 名（一日平均）　入院患者　165 名（一日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	二次救急も広く受け入れており、高齢患者の診療を通して、地域医療、病診連携、病病連携、在宅医療との連携などについて経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本神経学会教育施設、日本血液学会研修教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本老年病学会研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、日本胆道学会認定指導医制度施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設

東海大学医学部付属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･東海大学医学部付属病院専攻医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（伊勢原健康推進室、人事課（心の相談室））があります。 ･ハラスメント委員会が東海大学に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 64 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 4 演題）をしています。
指導責任者	永田 栄一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 東海大学医学部付属病院は、特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院として様々な高度医療を提供すると同時に、高度救命救急センター・大規模集中治療室を有し、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリの運用医療機関でもあります。大学病院ならではの高度専門医療と内科全般的医療を同時に経験でき、また、認知症疾患医療センターも併設しており、地域に根付いた診療をしております。専攻医の多様な希望を満し得るプログラムを準備しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 64 名、日本内科学会総合内科専門医 56 名、 日本消化器病学会専門医 13 名、日本肝臓学会専門医 6 名、 日本循環器学会専門医 18 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 1 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 5 名、日本腎臓学会腎臓専門医 6 名、 日本呼吸器学会専門医 9 名、日本血液学会専門医 12 名、 日本神経学会専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）4 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 3 名、

	日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名 日本集中治療医学会専門医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 5 名、 日本消化管学会専門医 5 名、日本老年医学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数 （年間）2024 年度	2024 年度 全科外来患者数 53,976 名（月平均延数） 2024 年度 全科入院患者数 24,018 名（月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）経験できる疾患群	日本内科学会認定医制度教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設、日本感染症学会専門研修施設 日本救急医学会指導医・専門医指定施設、日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本腎臓学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本透析医学会認定制度認定施設、日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設、日本リウマチ学会教育認定施設 臨床遺伝専門医認定研修施設、日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本心エコー図学会心エコー図専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本環境感染学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設、ステントグラフト実施施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本頭痛学会認定教育施設、日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関 日本胆道学会指導施設、日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設、日本ヘリコバクター学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設、日本病院総合診療医学会認定研修施設 日本脳卒中学会研修教育施設、日本認知症学会教育認定施設 日本膵臓学会認定施設、日本造血・免疫細胞療法学会認定施設

東京医科大学病院

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	･基幹型臨床研修病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･労務環境が保障されています。 ･臨床心理士によるカウンセリングを随時実施しています。 ･ハラスメントに関する委員会が整備されています。 ･休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に保育施設があります。
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	･指導医 84 名が在籍しています。 ･研修委員会を設置し、基幹施設との連携により専攻医の研修支援体制を構築しています。 ･「医療安全」「感染対策」「個人情報保護」「コンプライアンス」に関する講習会を定期的に開催しています。 ･CPC を定期的に開催しています。 ･JMECC 院内開催を実施しています。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、ほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環境	･臨床研究が可能な環境が整っています。 ･臨床研究支援センター、治験管理室が設置されています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	専門研修プログラム統括責任者　四本 美保子（臨床検査医学科准教授） 【内科専門医へメッセージ】 新宿区西新宿駅に位置する特定機能病院で、内科系診療科（総合診療科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病･代謝･内分泌内科、リウマチ･膠原病内科、神経内科、消化器内科、腎臓内科、高齢診療科、臨床検査医学科、感染症科）および救急領域での研修が可能です。 症例数が豊富で、幅広い症例を経験できます。最新治療や設備のもと、内科専門医として必要な技術を習得できる環境を提供します。他科との風通しも良く、他職種とのチームワークの良さも特長のひとつです。
指導医数(常勤医)	消化器病学会 39 名、アレルギー学会 1 名、循環器学会 27 名、 リウマチ学会 9 名、内分泌学会 13 名、感染症学会 14 名、腎臓学会 11 名、 糖尿病学会 33 名、呼吸器学会 10 名、老年医学会 13 名、血液学会 17 名、 肝臓学会 11 名、神経学会 22 名、臨床腫瘍学会 1 名、消化器内視鏡学会 39 名
外来・入院患者数	外来患者数（延患者数）58,289 人/月平均 入院患者数（延患者数）24,292 人/月平均
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます

経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設	一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会　家庭医療後期研修プログラム認定施設、一般社団法人日本東洋医学会　研修施設、日本血液学会　専門研修認定施設、公益財団法人日本骨髄バンク　非血縁者間骨髄採取認定施設、一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会　非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科、社団法人日本呼吸器学会　認定施設、日本循環器学会　循環器専門医研修施設、日本高血圧学会　研修施設、日本睡眠学会　専門医療機関、日本不整脈心電学会　不整脈専門医研修施設、日本動脈硬化学会　教育病院、日本心血管インターベンション治療学会　潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設、日本循環器学会　経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設、日本心エコー図学会　〝認定心エコー図専門医制度研修施設〟、日本不整脈心電学会　パルスフィールドアブレーション実施施設、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会　カテーテル的大動脈弁置換術（TAVR）専門施設認定、日本心血管インターベンション治療学会　動脈管開存症に対する経皮的動脈管開存閉鎖術実施施設、日本心血管インターベンション治療学会　心房中隔欠損症に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設、日本糖尿病学会教育施設、日本内分泌学会　教育施設、日本肥満学会　肥満症専門病院、日本肝臓学会　認定施設、社団法人日本超音波医学会　超音波専門医研修施設、日本消化器病学会　認定施設、日本膵臓学会　指導施設、日本炎症性腸疾患学会　指導施設、日本腎臓学会　教育施設、日本透析医学会　認定施設、日本病態栄養学会　病態栄養専門医研修認定施設、日本アフェレシス学会　施設認定、日本認知症学会　教育施設、日本臨床検査医学会　認定病院、日本輸血・細胞治療学会　日本輸血・細胞治療学会指定施設、日本輸血・細胞治療学会(技師)　指定施設認定、社団法人日本感染症学会　研修施設認定証、日本消化器内視鏡学会　指導施設、日本消化管学会　胃腸科指導施設、日本カプセル内視鏡学会　指導施設

独立行政法人　国立病院機構　東京医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・　期間付常勤職員としての労務環境を保障 ・　専攻医寮有(駐車場有り) ・　図書室とインターネット環境有り(蔵書数単行本約 4000 冊、製本約 33000 冊、継続雑誌約 300 タイトルの医中誌、メディカルオンライン、ProQuest など各種文献検索サービスあり) ・　院内保育園有り ・　委員会・ワーキング等の設置有り(メンタルストレス対策、ハラスメント委員会、ワークライフバランス向上ワーキング等) ・　授乳室、女性用休養室有り ・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院(臨床研修実施は 50 年以上)
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・　指導医常時 40 名程度 ・　内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る ・　CPC カンファレンス年間 5 回程度実施 ・　JMECC インストラクター資格 2 名 ・　内科専門研修事務局設置 ・　各種研修会等 　・　医療倫理講習会　・ 医療安全講習会・研修会 　・　感染対策・ICT 講習会　・ 研修施設群合同カンファレンス 　・　キャンサーボード　・ EBM ワークショップ 　・　「医療を考える」シンポジウム 　・　AHA BLS コース、AHA ACLS コース 　・　地域医療カンファレンス　・ JMECC 講習会 　・　臨床研究セミナー　・ 生物統計セミナー　等 ・　臨床研究センター(感覚器センター)併設
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1 ・　病床数(医療法)640 床(一般 640 床[うち救命救急病床 28 床]) ・　高度専門医療施設:感覚器 ・　基幹医療施設:がん ・　特色:救命救急センター　エイズ治療拠点病院　東京都災害拠点病院　管理型臨床研修指定病院　臓器提供施設　地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　東京都脳卒中急性期医療機関　周産期連携病院　がんゲノム医療連携病院 ・　内科剖検数:21 体/3 年

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究センター設置(希望する専攻医は臨床研究センターに所属して研究に従事することが可能。疫学的手法を用いた臨床研究の手法についての理解を深めることも可能。) ・ 倫理審査委員会設置:10 回/年開催 ・ 専攻医は内科臨床に関連する学会で症例報告を行う。(各種研究会及び学会総会や地方会での発表の指導を受けることができる。) ・ 2016 年度からは臨床研究支援センターを立ち上げ、臨床研究を計画するものや実施する医師等に対し、倫理委員会への提出やデータマネジメント業務などの支援を行っている。 ・ 治験も積極的に行っている。
指導責任者	内科専門研修プログラム統括責任者:上野 博則
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 39 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本老年医学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本不整脈心電学会不整脈専門医 1 名、総合診療専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来:331,313 人(1,453 人/日)　　入院:190,343 人(777 人/日)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、在宅医療、超高齢医療、病診・病病連携、地域包括ケア、アドバンス・ケア・プランニング
学会認定施設 (内科系)	日本感染症学会研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本呼吸器学会認定施設(内科系)、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本臨床腫瘍学会研修施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士認定教育施設、日本神経学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本脳卒中学会研修教育施設、日本脳卒中学会一次脳卒中センター、日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本老年医学会認定施設、日本アレルギー学会教育施設、日本がん治療認定医機構研修施設、日本緩和医療学会研修施設、日本救急医学会専門医・指導医指定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設、日本肝臓学会認定施設、日本病院総合診療医学会、日本動脈硬化学会など

東京科学大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従います。 ・メンタルストレスに適切に対処する部門として保健管理センターが設置されています。 ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、各部に苦情相談員が置かれています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう､女性医師用の休憩室､更衣室､仮眠室､シャワー室、当直室が整備されています。 ・学内の保育園（わくわく保育園）が利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 135 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。（2020 年度開催実績 4 回内科系のみ） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・東京科学大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能です。 ・臨床倫理委員会が設置されています。 ・臨床試験管理センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 12 題の学会発表を行っています。（2020 年度実績） ・内科系学会等で年間 190 題の学会発表を行っています。（2020 年度実績）

指導責任者	服部 高明 【メッセージ】 東京科学大学内科は、日本有数の初期研修プログラムとシームレスに連携して、毎年 70～100 名の内科後期研修医を受け入れてきました。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。
指導医数 （常勤医）	135 名
外来・入院患者数	外来患者数：443,684 人（総数 旧 医学部附属病院実績） 入院患者数：167,662 人（総数 旧 医学部附属病院実績）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本老年医学会認定施設、日本老年精神医学会認定施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設、不整脈学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、学会認定不整脈専門医研修施設、日本脈管学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本神経学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、認知症学会専門医教育施設

東京都立広尾病院

認定基準【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（総務課担当職員） ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・病院建て替えに伴い院内保育所が現在休止している。
認定基準【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 15 名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ･医療倫理（1 回）・医療安全（１１回）･感染対策（2 回）講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度：1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、剖検例についても定常的に専門研修可能である。（2024 年度：11 症例）
定基準【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。内科系学会の発表総数は 52 演題。卒後３～６年目の内科専門研修（旧制度含む）中の医師が筆頭の演題は 13 演題。
指導責任者	田島　真人 【内科専攻医へのメッセージ】　広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うこ

	とも可能です。また 2023 年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修も行うことが可能です。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 22 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名 日本消化器内視鏡学会認定専門医 5 名 日本肝臓学会認定肝臓専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本神経学会認定神経内科専門医　3 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医　3 名　　ほか　（2024 年度末時点）
外来・入院患者数	外来患者 47,690 名 入院患者　2,960 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本神経学会准教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本救急医学会指導医専門医指定施設設　ほか

独立行政法人　地域医療機能推進機構　東京山手メディカルセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •当院任期付職員（レジデント）として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. •ハラスメント委員会が整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所はないが，専攻医が利用を希望した場合は，保育施設との提携も含め，専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 26 名在籍しています（下記）. •内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会（2021 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器，血液，膠原病，および救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題、2020 年度実績 1 演題、2021 年度実績 10 演題）をしています.
指導責任者	笠井 昭吾 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科は総勢約 30 名の各臓器別専門領域医師で構成され、患者数 3000 名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門領域で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療を提供しています。そして、高い専門性を有しつつ、その中で「総合内科」として 1 つの科にまとまっており、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持

	っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院総合内科の大きな特徴です。総合内科として初診外来、救急診療、地域連携、研修医教育を行うとともに、地域医療・介護機関と連携し地域包括ケアの実践と、総合医マインドを持った研修医の育成に努めています。東京の中心、新宿で 60 年以上の長い歴史で培ってきた地域医療機関との連携を生かした、「地域密着型」の研修を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名，日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 2 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本感染症学会専門医 2 名，日本肝臓学会 3 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 101,000 名（2021 年度）　入院患者 3,341 名（2021 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，61 疾患群（神経以外）の症例を経験することができます.
経験できる技術・技　能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．都市部ならではの「地域密着型の研修」を行ないます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会認定準教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本リウマチ学会、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ連合学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設、エイズ治療拠点病院、東京都災害拠点病院など

東北医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・東北医科薬科大学病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー 室、当直室が整備されています。 ・職員のみ利用できる保育園があり、夜間保育も行っています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 48 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、各研修施設との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣを定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全ての専攻医にＪＭＥＣＣ受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスも定期的に開催を予定し、専攻医に参加するための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を適切に行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究推進センター、治験センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	木村 朋由
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 48 名、日本内科学会総合内科専門医 42 名、 日本消化器病学会専門医 7 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、 日本循環器学会専門医 11 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本内分泌学会 2 名、日本感染症学会専門医 4 名、 日本腎臓学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、日本老年医学会専門医 5 名、 日本血液学会専門医 4 名、日本肝臓学会専門医 1 名、 日本神経学会専門医 7 名、日本臨床腫瘍学会専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者数 39,073 名・入院患者数 10,375 名［2024 年度実績］
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領

	域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本病院総合診療医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（耳鼻科、呼吸器内科） 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本神経学会認定教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本消化器内視鏡学会指導施設　など

平塚市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. • 常勤医師として採用され，安定した身分保障および労務環境が整えられています. • メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります. • ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています. • 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. • 敷地内に院内保育所があり，週 3 日は 24 時間利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	• 内科学会指導医が在籍しています. • 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります. • 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）を予定し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります. • CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります. • 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をとります.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています. また，血液，膠原病についても非常勤医師の指導の下，外来入院診療を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	高木 俊介 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で，専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています. 高度急性期，急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで，市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます. 平成 28 年度に新棟がオープンし，ゆったりとした外来・病棟，最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU，外来化学療法室・透析室・手術室，広いリハビリ室などが新棟内に設置されています．また 320 列 CT や IVR－CT などの先

	進機器に加えて，新棟開設に伴い最新鋭のリニアックも設置され，県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています. 内科の広範な診療を支えるため，主な領域には常勤指導医がおり，また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます．放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており，救急医療に関しては，平塚市民病院救命救急センターを有し救急科専門医を中心に湘南西部地域の中心病院として高度急性期疾患にも対応しています. さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる，充実した専門医研修を目指しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名,日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名,日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名,日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本内分泌学会専門医 0 名,日本糖尿病学会専門医 0 名, 日本腎臓病学会専門医 0 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 0 名,日本神経学会神経内科専門医 4 名, 日本アレルギー学会専門医 0 名,日本リウマチ学会専門医 0 名, 日本感染症学会専門医 0 名,日本救急医学会救急科専門医 5 名,（2022 年度）
外来・入院患者数	外来患者 約 14,900 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 約 303 名（1 日平均） （2021 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期，急性期医療のほか，回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療，さらには高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会指導施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設、日本 IVR 学会専門医修練施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本脳神経学会専門医研修施設、日本糖尿病学会教育関連施設、日本アレルギー学会専門医制度教育研修施設、厚生労働省指定臨床研修病院など

藤沢湘南台病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹研修指定病院　030861 ・藤沢湘南台病院常勤医としての労務環境が保証されています ・研修に必要な図書室と院内インターネット環境があります ・健康管理部（健診は、同一法人ライフメディカル健診プラザ病院より徒歩 8 分）があります　ストレスチェックを毎年実施　また労働安全衛生委員会があり、職場環境の改善維持確認を行っています ・ハラスメント委員会設置されています ・女医専用の部屋　当直室、シャワー等があります ・病院専用の保育室が院外にあります。病院より徒歩 3 分
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 3 名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置される臨床研修委員会と連携します ・研修群の合同カンファレンスには出席を義務付けそのための時間的余裕も与えます ・CPC を毎年開催しております。専攻医受講を義務付けそのための時間的余裕も与えます ・定期的に行われる医療安全講習・感染対策講習に出席を義務としてそのための時間的余裕も与えます ・内科系倫理委員会の時にできるだけ出席をお願いして、そのための時間的余裕も与えます ・内科領域 13 分野のうち専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	13 領域にて専門研修が可能な症例数を診察します 2023 年内科系剖検数 1 体 2024 年内科系剖検数 1 件 2025 年内科系剖検数 4 件
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室, インターネット環境などを整備しています. ･倫理委員会を設置し, 定期的に開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会の学会発表しております

指導責任者	松田玲圭　湘南東部医療圏で藤沢市北部に位置しております。藤沢市北部、綾瀬市、大和市、横浜市泉区の患者を中心に地域医療の充実とともに内科医の育成のため、プログラム連携して内科専門医研修を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名,日本内科学会総合内科専門医 3 名,日本内科学会内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名,日本消化器内視鏡学会専門医 4 名,日本循環器学会循環器専門医 2 名,日本神経学会神経内科専門医 1 名,日本救急医学会救急科専門医 2 名ほか
外来・入院 患者数	外来内科患者 2,625 名　　病院全体 10,534 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者名 1,822 名　　病院全体 6,872 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設、IBD 指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、CVIT 研修施設群連携施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定証

横須賀市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・当院専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室があります。 ・ハラスメント委員会が当院に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍しています。（2023 年度） ・初期および専門医研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 1 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022 年実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、呼吸器、消化器、循環器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 2 演題）をしています。 ・臨床研究に必要な図書室、電子ジャーナル等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的（2021 年実績 12 回）を開催しています。
指導責任者	・岩澤 孝昌 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立うわまち病院は地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また、人材の育成や地域寮の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器科専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会認定専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　484.9 名（１ヶ月平均）　　入院患者　262.0 名（1 ヶ月平均）　※2022 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本病院総合医診療学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　ほか

国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています. •院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各 1 名おり,セクハラに関する相談を受け付けています. •女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	•指導医は 11 名在籍しています. •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者,プログラム管理者,（ともに内科指導医））にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（仮称：2025 年度以降予定）が設置します. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度開催予定）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回（COVID-19 影響））し,専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器症例検討会,心不全医療連携研究会,糖尿病内分泌談話会,腎疾患地域談話会,呼吸器懇話会,消化器疾患地域談話会,救急症例検討会,：2023 年度実績 12 回）を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催予定）を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. •専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 5 体,2023 年度 3 体（COVID-19 影響））を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室,インターネット環境などを整備しています. •倫理委員会を設置し,定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています. •治験管理室を設置し,定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 12 回）しています.

	•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	山田 昌代【内科専攻医へのメッセージ】横浜栄共済病院は神奈川県の横浜市南部医療圏の急性期基幹病院であり,協力病院と連携して内科専門研修を行い,地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います.主担当医として,入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで,医療安全を重視しつつ,社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名,日本内科学会総合内科専門医 10 名,日本消化器病学会消化器専門医 5 名,日本循環器学会循環器専門医 5 名,日本内分泌学会専門医 2 名,日本糖尿病学会専門医 2 名,日本腎臓病学会専門医 2 名,日本本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名,日本神経学会神経内科専門医 2 名,日本救急医学会救急科専門医 1 名,ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5,969 名（1 ヶ月平均）　入院患者 5,030 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本高血圧学会認定施設、日本動脈硬化学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本呼吸器学会専門医認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本透析医学会認定教育関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、腹部ステントグラフト実施施設、胸部ステントグラフト実施施設、日本リウマチ学会教育施設認定、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定、日本認知症学会教育施設、日本病理学会研修登録施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設など

横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 79 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2023 年度実績 19 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2023 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績　16 演題）をしています。
指導責任者	前田 愼 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 79 名、日本内科学会総合内科専門医 51 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　11,655 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　4,545 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

独立行政法人　労働者健康安全機構　横浜労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）、産業医がおります。 ・ハラスメントについては、相談員（男女各１名）を置き、職員の相談に対応しており必要に応じ職員相談委員会を開催する体制が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。 ・敷地内に院内保育所を整備しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が25名在籍しています。 ・医師臨床研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を毎年院内で開催しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会のほか、内科系各分野の学会での学会発表を行っており、日本内科学会での発表 2，内科系学会での発表は 50 にのぼります。論文発表も英文誌を含めて行っています。専攻医には年 1 回以上の学会発表をするよう指導しており、論文発表の指導も行っています。
指導責任者	責任医師名　山崎 悦子 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構が設置、運営する病院であり、労災疾病の診療、研究、勤労者医療の展開を行うとともに、横浜市北東部中核医療施設として救急診療、高度医療、がん診療、小児医療、産科医療における大きな役割を担っています。内科系のすべての領域において初診から診断、治療に至るまでの高い専門性を有する診療が行われており、また安全、倫理、感染、内科救急などの研修機会も整っています。そして、内科専門研修のために何よりも重要なことは、より多くの症例を優れた指導体制の下に経験することであ

	り、当院は専攻医が充実した専門研修ができる環境を用意しています
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医25名、日本内科学会専門医12名、総合内科専門医28名 日本消化器病学会専門医5名、日本消化器内視鏡学会専門医3 名、 日本循環器学会専門医8名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本肝臓学会専門医2名、日本呼吸器学会専門医3 名、 日本腎臓学会専門医2 名、日本内分泌学会専門医3名、 日本血液学会専門医3名、日本神経学会専門医5名 日本リウマチ学会専門医3名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名 日本心療内科専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 12 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者数19,856 名（内科系診療科のみの1 ヶ月平均） 新入院患者数 593 名（内科系診療科のみの1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、最新医療、臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し、地域医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設教育病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本禁煙学会教育認定施設、日本神経学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定脳卒中教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本血液学会血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー専門医教育施設、日本がん治療認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会認定教育施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本心身医学会研修診療施設、日本心療内科学会研修施設（基幹研修施設）、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設、日本肝臓学会認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本感染症学会研修施設、日本胆道学会認定指導施設

新百合ヶ丘総合病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2026年5月現在）

新百合ヶ丘総合病院

井廻　道夫　（プログラム統括責任者，委員長）
広石　和正　（プログラム管理者，　消化器内科分野責任者）
篠崎　倫哉　（内科研修委員会委員長，腎臓内科分野責任者）
櫻井　智明　（事務局代表，事務長）
櫻井　馨　（循環器内科分野責任者）
永井　厚志　（呼吸器内科分野責任者）
眞木　二葉　（神経内科分野責任者）
佐倉　宏　（内分泌・代謝内科責任者）
田内　哲三　（血液内科責任者）
荻原　秀樹　（膠原病リウマチ内科責任者）
川島　彰人　（総合内科分野責任者）

連携施設担当委員

宮塚　健　（北里大学病院，内科分野責任者）
村井 弘之　（国際医療福祉大学成田病院，内科分野責任者）
合屋 雅彦　（国際医療福祉大学三田病院，内科分野責任者）
山田 佳彦　（国際医療福祉大学熱海病院，内科分野責任者）
出雲 昌樹　（聖マリアンナ医科大学病院，内科分野責任者）
菅原　崇　（総合東京病院，内科分野責任者）
金子 知香子　（総合南東北病院，内科分野責任者）
望月 孝俊　（茅ヶ崎市立病院，内科分野責任者）
菊池 健太郎　（帝京大学医学部附属溝口病院，内科分野責任者）
水間 敦士　（東海大学医学部付属病院，内科分野責任者）
四本 美保子　（東京医科大学病院，内科分野責任者）
上野 博則　（東京医療センター，内科分野責任者）
服部 高明　（東京科学大学病院，内科分野責任者）
田島 真人　（東京都立広尾病院，内科分野責任者）
笠井 昭吾　（東京山手メディカルセンター，内科分野責任者）
木村 朋由　（東北医科薬科大学病院，内科分野責任者）
高木 俊介　（平塚市民病院，内科分野責任者）
松田 玲圭　（藤沢湘南台病院，内科分野責任者）
岩澤 孝昌　（横須賀市立総合医療センター，内科分野責任者）
山田 昌代　（横浜栄共済病院，内科分野責任者）
藤田 浩司　（横浜市立大学附属病院，内科分野責任者）

山崎 悦子　　（横浜労災病院，内科分野責任者）

オブザーバー　　内科専攻医代表